技術にも、体温があるんだね。

どこへ行ったら会えるという存在でもないのに
毎日、たくさんの便利や快適を送りとどけている。
いないように見えて、ちゃんとそこにいる。
それが、私たちの技術の正体なんです。
みんなの幸せのためにがんばっています、よろしく。
これからも、ずっとずっと人と技術の
あたたかい関係を考えていきます。日立です。

人と技術の理想をめざす **Interface**

株式会社 日立製作所

第45回国民体育大会 "とびうめ国体"

熊本が2種目（成年女子、少年男子）に優勝
地元・福岡が成年男子2部を制す

第45回国民体育大会は、福岡県で「とびうめ国体」と銘打ち、秋季大会は9月21日に開幕した。

ハンドボール競技は、22日から26日までの5日間、成年男子1部、成年男子2部、成年女子、少年男子、少年女子の5種目に熱戦をくり広げた。ここにその詳報をお伝えしよう。

成年男子1部

1回戦

香川（讃岐ク）37〔18—4 / 19—6〕10 北海道（札幌選抜）

〔戦評〕前半，スタートから両チームともキビキビとよく動いたが、札幌はミスが多く、ツキにも見放された感じで、リバウンド、逆速攻さらにはミドル、サイドと讃岐クの得点を許し、18—4と大差をつけられた。後半に入っても決定力に勝る讃岐クが速攻、セットで得点を重ね快勝した。

得	〔香川〕		〔北海道〕	得
0	平田	GK	小西	0
0	大谷	GK	千葉	0
9	亀井	FP	岡	0
2	泉谷	FP	赤川	0
1	竹内	FP	柏崎	3
4	浜田	FP	奥田	3
6	高畠	FP	畠山	1
6	谷口	FP	山本	1
2	渡辺	FP	小野寺	0
3	渡里	FP	佐藤	2
2	上濱	FP	花畑	0
2	造田	FP	無量林	0
37	(2)	PT	(1)	10

（審・鈴木・大和）

沖縄（パームヒルズク）34〔15—13 / 19—16〕29 石川（全石川）

〔戦評〕前半、石川が福田のミドルシュートで先制し、16分頃までリードを続けるが、沖縄も粘り強く攻め、前半終了間際石川に退場者が出る。そこをうまく攻めて2点差で前半を終る。後半になって沖縄は余裕のある試合展開をする。石川もよく奮闘し9分には連続速攻で1点差まで盛り返すもそこまでで、沖縄が3連続速攻で差をつけ勝利をものにする。石川も最後までがんばり好感がもてた。

得	〔沖縄〕		〔石川〕	得
0	新城	GK	竹中	0
0	溜	GK	池田	0
4	黒島	FP	土山	3
9	東江	FP	福田	5
4	名嘉	FP	真田	5
1	新垣	FP	関戸	2
5	武村	FP	園下	3
0	新里	FP	古橋	2
4	内原	FP	北岡	5
2	比嘉	FP	西田	0
5	喜舎場	FP	岡	0
0	新城	FP	中井	4
34	(4)	PT	(0)	29

（審・大村・北島）

2回戦

広島（広島選抜）41〔21—8 / 20—5〕13 香川

〔戦評〕前半、香川はよくボールを回し攻めるが、湧永を中心とする広島の固いディフェンスに阻まれ得点できない。逆に広島は速攻から得点を重ね21—8で前半終了。後半も広島は、玉村、河原のロングシュート、甲斐の速攻で如点し差をひろげた。香川もGKの好守など善戦したが、広島の圧勝であった。

得	〔広島〕		〔香川〕	得
0	井藤	GK	平田	0
0	宇田川	GK	大谷	0
3	酒巻	FP	亀井	1
5	河原	FP	泉谷	0
7	玉村	FP	竹内	0
8	堀田	FP	浜田	0
4	西山	FP	高畠	5
1	中川	FP	谷口	1
2	武田	FP	渡辺	0
2	荷川取	FP	渡里	5
6	甲斐	FP	上濱	0
3	奥田	FP	浩田	1
41	(2)	PT	(0)	13

（審・高橋・森山）

京都（京都ク）17〔7—7 / 10—8〕15 福岡（全福岡）

〔戦評〕本年の教員大会決勝戦の再現、その後補強して万全を期す福岡、開始早々福岡・清家のロングで立て続けに3点を先取と福岡上々の出だし、それに対し、京都シュートミスにて得点決まらず13分までノーゴール、しかし、13分のPTから波に乗り前半7—7で折り返す。後半、京都は余裕を取り戻し着々と加点、それに対し、福岡はあせり、思うように得点決まらず、結局17—15で京都が勝利を握る。

得	〔京都〕		〔福岡〕	得
0	山下	GK	山田	0
0	咲本	GK	澤井	0
0	国府	FP	浜口	3
0	佐久間	FP	柏原	0
9	楠本	FP	野田	2
0	川口	FP	古賀	1
0	池辺	FP	藤田	1
1	西田	FP	清家	4
4	西村	FP	遠藤	0
1	中村	FP	平野	0
2	加藤	FP	堤	0
0	清水	FP	早川	4
17	(8)	PT	(2)	15

（審・阿部羅・浜野）

三重（本田技研鈴鹿）39〔20—8 / 19—9〕17 岩手（花巻ク）

〔戦評〕前半開始、両チームともにミスが目立ったが、地力に勝る本田技研が速攻、セットを着実に決め20—8で前半終了。後半花巻クも中島を中心によく粘ったが、本田技研のパワーとスピードについて行けず結局39—17で本田技研

が快勝。

	〔岩手〕	得	〔三重〕	得
GK	鎌田	0	高木	0
	多田	0	橋本	0
FP	谷川	4	山本	0
	中島	4	山村	7
	及川	2	香西	0
	阿部	1	立木	5
	山口	0	福村	4
	吉田	2	内藤	5
	鈴木	0	大塚	2
	小田中	3	梅基	4
	高橋	0	田口	2
	岩角	1	平松	10
		17		39
PT		(1)		(2)

〔審・川島 森〕

埼玉（大崎電気）52〔26－13 26－9〕22 沖縄

〔戦評〕前半10分まで、ブラインドやステップシュートなど沖縄の持ち前のテクニックで互角に戦かったが、セット、速攻ともに勝る大崎が多彩な攻撃と確実なディフェンスで着実に加点し快勝した。

	〔沖縄〕	得	〔埼玉〕	得
GK	新城	0	矢内	0
	溜	0	渡辺	0
FP	黒島	4	大橋	2
	東江	5	大和田	4
	名嘉	3	武田	9
	新垣	0	首藤	0
	武村	2	中田	1
	新里	0	魚住	10
	内原	2	甲斐	5
	比嘉	3	山内	10
	喜舎場	3	珍田	5
	新城	0	宮下	6
		22		52
PT		(1)		(0)

〔審・吉村 秋庭〕

準決勝

広島 23〔16－5 7－11〕16 京都

〔戦評〕広島は湧永主体の鍛えられたチームで、スピード、パワーとはげしいディフェンスで京都を寄せつけない一方的なゲーム、京都も全員で走り粘るが力の差はどうしようもなく前半終了。後半、京都のディフェンスがよくなり、パスカットからの速攻が決まりゲームを盛り上げる。広島は点差が開いて気がゆるんだのか雑なプレーが目立つ、逆に京都がゲームを盛り上げ観客を喜ばせたが地力に勝る広島が逃げ切る。

	〔京都〕	得	〔広島〕	得
GK	山下	0	井藤	0
	咲本	0	宇田川	0
FP	国府	3	酒巻	4
	佐久間	2	河原	1
	楠本	3	玉村	5
	川口	0	堀田	8
	池辺	0	西山	0
	西田	3	中川	2
	西村	2	武田	0
	中村	1	荷川取	2
	加藤	1	甲斐	0
	清水	1	奥田	1
		16		23
PT		(2)		(0)

〔審・浜田 小笠原〕

埼玉 23〔11－13 12－6〕19 三重

〔戦評〕日本リーグ一部同志の対戦となったこの試合は、スピード感あふれ1点を争う好ゲームとなったが、埼玉が接戦をものにした。前半中盤までは埼玉が押し気味で15分8－6とリードしていたが、三重もミドルシュートが決まりだし、前半は三重が13－11と2点リードで終了。後半に入り、埼玉・首藤のロングが連続して決まり、10分15－15と同点に追いつく、15分17－17から埼玉・宮下が連続してロングシュートを決め試合を決定づけた。

	〔三重〕	得	〔埼玉〕	得
GK	高木	0	矢内	0
	橋本	0	渡辺	0
FP	山本	0	大橋	0
	山村	3	大和田	3
	香西	0	武田	2
	立木	4	首藤	5
	福村	0	中田	1
	内藤	2	魚住	2
	大塚	2	甲斐	4
	梅基	2	山内	2
	田口	6	珍田	1
	平松	0	宮下	3
		19		23
PT		(2)		(2)

〔審・南 大城〕

3位決定戦

三重 27〔14－10 13－8〕18 京都

〔戦評〕前半出だしは、三重の高いディフェンスに京都は苦しみ、逆に三重は速いパスワークから内藤のロングなどで次々に加点し、10分過ぎには6－1とリードを広げる。前半中盤から京都はリズムをつかみ、楠本のロングなどで前半は14－10と三重の4点リードで折り返す。後半10分過ぎまで4点差で京都がついていくが、三重が速攻で3点連取し、その後も内藤、福村のロングでリードを広げた。結局27－18で三重が勝利を収めたが、京都の健闘を大いにたたえたい試合であった。

	〔京都〕	得	〔三重〕	得
GK	山下	0	高木	0
	咲本	0	橋本	0
FP	国府	2	山本	3
	佐久間	0	山村	3
	楠本	9	香西	0
	川口	1	立木	3
	池辺	0	福村	3
	西田	0	内藤	8
	西村	1	梅基	1
	中村	2	田口	2
	加藤	3	平松	4
	清水	0		
		18		27
PT		(4)		(3)

〔審・大和 鈴木〕

決勝

広島 29〔15－11 14－8〕19 埼玉

〔戦評〕広島は湧永勢でスタート、まさに湧永対大崎の戦いは、両チームのチームカラーが出たゲームであった。すなわち広島は玉村、河原の上と荷川取のポストプレーがかみあい有利にゲームを進める。一方、大崎も宮下のミドルシュート、魚住、武田が走りゴールを決める。しかし、広島は宮下とコントロールタワーの首藤をマーク、動きの悪くなった所を広島が多彩な攻撃を見せ宿敵大崎に快勝した。点差は開いたものの、レフェリーが選手の力をうまく引き出し、素晴らしい決勝戦であった。

	〔埼玉〕	得	〔広島〕	得
GK	矢内	0	井藤	0
	渡辺	0	宇田川	0
FP	大橋	2	酒巻	5
	大和田	3	河原	0
	武田	2	玉村	6
	首藤	1	堀田	4
	中田	1	西山	4
	魚住	4	中川	1
	甲斐	3	武田	1
	山内	1	荷川取	4
	珍田	0	甲斐	0
	宮下	2	奥田	4
		19		29
PT		(1)		(2)

〔審・川島 森〕

成年男子2部

1回戦

山形（東根ク）35〔19－10 16－17〕27 東京（桜門ク）

〔戦評〕東京が大薮の力強いシュートで得点、山形もすぐさま反撃するという迫力のある試合となった。10分頃までは一進一退の攻防であったが、山形・佐藤、斉藤を軸に速いパス回しから自在に攻撃、速攻も飛びだし試合巧者の東京を圧倒し前半を終えた。後半、東京も反撃、GKの好守もあり終始盛り上がった試合であった。山形のスピード、パワーともにクリーンな印象が残った。

	〔東京〕	得	〔山形〕	得
GK	三原	0	仲山	0
	安藤	0	加納	0
FP	出川	0	斉藤	7
	浅賀	3	水戸部	4
	水之江	7	佐藤	1
	新井田	1	小沢	12
	伊藤	1	奥山	0
	会田	0	小林	0
	大薮	9	赤平	2
	白坂	4	大山	0
	早坂	2	佐藤	9
		27		35
PT		(3)		(2)

〔審・中川 中村〕

愛知（日本電装）30〔14－14 16－12〕26 大分（大分選抜）

〔戦評〕立ち上がりは単調な攻めに対し、逆速攻で4－1と愛知リードでスタートしたが、15分頃から大分は荻本の速攻、サイドシュートと伊南のカットイン、ロングシュートなどで追い上げシーソー

ゲームとなる。愛知も井上のサイドシュートなどでふんばり14—14で折り返した。後半は、大分ディフェンスの集中力が欠けたところを一気に攻めた愛知が中盤までに24—16とリードを広げた。対する大分もGK藤内の好守に助けられ反撃に出て3点差まで詰めよったが、ツメのシュートミスが目立った大分であった。

〔大分〕		得
GK	藤内	0
GK	中島	0
FP	後藤	5
FP	篠田	3
FP	河野	3
FP	竹下	0
FP	工藤	0
FP	島村	1
FP	伊南	7
FP	藤沢	0
FP	荻本	7
PT	(1)	26

〔愛知〕		得
GK	高橋	0
GK	福山	0
FP	杉村	5
FP	橋本	3
FP	近藤	0
FP	梅井	0
FP	久本	6
FP	岸田	1
FP	井上	3
FP	笠	6
FP	樋口	1
FP	難波	5
PT	(0)	30

（審・森山、高橋）

千　葉（千葉選抜）26 〔14—8 / 12—17〕 25 山　口（下松ク）

〔戦評〕千葉・平松、山口・藤井の両GKの好守が光るゲームであった。前半千葉は速攻、セットと多彩な攻撃で14—8のリードで折り返す。後半に入っても千葉ペースであったが、10分過ぎから速攻が出だした山口にリズムが出て、21分には22—20で2点差まで追い上げる。その後も1点を争う好ゲームとなったが、千葉が若い山口をかろうじて振り切った。

〔山口〕		得
GK	藤井	0
GK	岡	0
FP	守田	0
FP	丸山	0
FP	藤末	0
FP	森野	0
FP	山本	2
FP	石田	4
FP	青木	5
FP	弘中	8
FP	森川	4
FP	南	2
PT	(4)	25

〔千葉〕		得
GK	平松	0
GK	富田	0
FP	仲田	6
FP	大鐘	1
FP	飯名	5
FP	澤田	2
FP	寺田	0
FP	太田	0
FP	菅沼	5
FP	佐々木	3
FP	川鍋	2
FP	福島	2
PT	(2)	26

（審・浜野、阿部羅）

沖　縄（パームヒルズクB）33 〔16—13 / 17—10〕 23 兵　庫（スワロー兵庫）

〔戦評〕前半出しから1点を争う好ゲームとなった。若手中心のパームヒルズはスピードのある速攻やセットプレーから得点し、ベテランの多いスワロー兵庫は落ち着いたプレーから得点を重ねた。後半に入り、パームヒルズはスピードが衰えず速い攻撃から得点を加えて差を徐々に広げた。一方スワロー兵庫もセットから多彩なプレーで反撃したが及ばなかった。

〔兵庫〕		得
GK	近藤	0
GK	狩野	0
FP	松岡	4
FP	西園	3
FP	竹内	2
FP	保田	0
FP	今井	4
FP	森本	2
FP	上原	2
FP	藤田	3
FP	寺口	2
FP	冨士	1
PT	(3)	23

〔沖縄〕		得
GK	安慶名	0
GK	我謝	0
FP	吉浜	9
FP	仲宗根	1
FP	奥間	6
FP	長田	3
FP	与儀	2
FP	上原	0
FP	下地	8
FP	南風	0
FP	大城	0
FP	島袋	4
PT	(1)	33

（審・中村、中川）

岡　山（全岡山）32 〔18—8 / 14—12〕 20 富　山（全富山）

〔戦評〕前半立ち上がり、岡山は富山のディフェンスの甘さもありロング、ミドル、カットイン、ポストなど多彩な攻撃で試合の主導権を握る。これに対し富山も速い動きでカットインや速攻などで食い下がる。そして、岡山の2回退場者が出るチャンスがあったが富山のシュートミスや岡山のGKの好守などにより、人数の少ない岡山がリードを広げ18—8と大量リードで前半を折り返した。後半に入っても、富山は大切な所でノーマークシュートをはずすなど、チャンスがありながらリズムをつかむ事が出来ず、結局前半の大量リードで全岡山が32—20で勝ちを収め2回戦に進出した。

〔富山〕		得
GK	姿	0
GK	古戸	0
FP	坂口	0
FP	吉井	6
FP	小西	1
FP	上野	1
FP	山本	7
FP	徳前	3
FP	小坪	1
FP	古川	0
FP	樋上	1
FP	山口	0
PT	(2)	20

〔岡山〕		得
GK	堀	0
GK	須田	0
FP	小池	0
FP	大森	3
FP	小橋	5
FP	石原	5
FP	同前	4
FP	石原	2
FP	中塚	10
FP	山本	3
FP	赤木	0
FP	丸川	0
PT	(2)	32

（審・大村、北島）

茨　城（茨城コンドルズ）39 〔20—12 / 19—14〕 26 北海道（虎の穴）

〔戦評〕お互いにロングシュートのないチームで、北海道はポストシュートを主体に、茨城はパスカットからの速攻、吉井のサイドシュートなどで得点、互いに点の取り合いとなったが、攻撃力に勝る茨城が20—12と前半を大きくリードして折り返した。

後半も、まんべんなく得点をあげた茨城が、終盤粘る北海道を突き放して勝利を収めた。

〔北海道〕		得
GK	河谷	0
GK	佐々藤	0
FP	松本	1
FP	三宮	2
FP	稲益	3
FP	表	1
FP	大橋	4
FP	樹下	6
FP	川村	3
FP	三浦	0
FP	及川	3
FP	荒井	3
PT	(1)	26

〔茨城〕		得
GK	横田	0
FP	安田	0
FP	三輪	3
FP	宜保	4
FP	横山	4
FP	吉井	7
FP	長谷川	5
FP	滝川	8
FP	小島	0
FP	海老沢	8
PT	(5)	39

（審・浜田、小笠原）

愛　媛（愛媛選抜）21 〔11—9 / 10—11〕 20 岩　手（志高ク）

〔戦評〕両チームともポストプレーを巧みに使って展開を作り、プレー自体が細かいものになりパスミスが多く相手ミスからの速攻でほぼ互角に戦っていたが、愛媛GKの好守にあい前半は11—9愛媛2点リードで終了。後半に入り、ムードのいい愛媛は相手ミスから速攻につなぎ、得点を広げようとするが岩手のGKの好守に阻まれリズムを崩し始めた。一進一退の

〔岩手〕		得
GK	菊池	0
GK	佐々木	0
FP	三田	2
FP	工藤	2
FP	宮崎	0
FP	高橋	1
FP	工藤	0
FP	田村	1
FP	千葉	0
FP	菊池	1
FP	櫻庭	5
FP	村上	8
PT	(1)	20

〔愛媛〕		得
GK	大岡	0
GK	先田	0
FP	田中	6
FP	和田	0
FP	作道	5
FP	白石	0
FP	壺内	1
FP	長野	0
FP	内山	3
FP	野本	5
FP	萬屋	1
PT	(1)	21

（審・大村、北島）

攻防の中落ち着いた攻撃をした愛媛が1点差で岩手を下した。

福岡 25 （12―12、13―12） 24 滋賀
（全福岡）　（滋賀ク）

〔戦評〕福岡がロング、カットインでリードするが、滋賀は両サイドで入れかえす互角の立ち上がり。その後も福岡は滋賀のゆっくりしたペースにディフェンスがなかなかかみ合わず、守りきれないまま前半はやっと1点リードで折り返す。後半に入り、滋賀はロング、サイド、ポスト、スカイプレーと多彩な攻撃を見せ終始リード。福岡は残り4分でやっとリードするが滋賀はすかさずサイドで入れ返し粘りを見せる。最後はペナルティーを福岡が得て逃げ切ったが、滋賀の健闘が大いに光った試合だった。

〔滋賀〕	得		〔福岡〕	得
石田	0	GK	篠崎	0
松山	0	GK	森山	0
位田	1	FP	仁熊	5
伊藤	1	FP	清水	4
能波	7	FP	島	2
井上	8	FP	田中	3
武田	2	FP	中島	1
大野	2	FP	浦塘	4
橋山	0	FP	中山	1
山根	1	FP	牧	1
西尾	1	FP	高田	2
山内	1	FP	白浜	2
	24			25
PT	(2)		PT	(1)

（審・浜田 小笠原）

2回戦

愛知 37 （21―13、16―16） 29 山形

〔戦評〕前半立ち上がり、東根クはカットイン、ポスト、ロングと多彩な攻撃で得点を重ね4点リードする。これに対し日本電装もだんだんリズムがでてきて速い攻撃で東根のディフェンスを崩し得点し、20分経過したところで逆転し東根に2点リードするが、東根も粘り残り7秒で同点に追いつき16―16で前半を折り返す。後半立ち上がり、日本電装は退場者を出しピンチを迎えるが、東根のミスから逆速攻で得点を重ね5点差までリードを広げる。東根もサウスポー小沢のロングシュートで食い下がるが18分で東根は退場者を出しこの間にリードを6点差まで広げる。結局相手ミスから着実に得点を重ねた日本電装が37―9で勝ち準決勝に進出した。

〔山形〕	得		〔愛知〕	得
仲山	0	GK	高橋	0
加納	0	GK	福山	0
斉藤	2	FP	杉村	7
水戸部	0	FP	橋本	8
佐藤	4	FP	近藤	1
小沢	11	FP	梅井	0
奥山	0	FP	久本	4
小林	0	FP	岸田	0
赤平	2	FP	井上	3
大山	0	FP	笠	8
佐藤	10	FP	樋口	0
		FP	難波	6
	29			37
PT	(1)		PT	(2)

（審・古富 赤地）

沖縄 25 （11―14、14―9） 23 千葉

〔戦評〕立ち上がり、沖縄はサイド、ミドル、ステップなど多彩に攻めペースをつかむ。5分過ぎ千葉も速攻、ポストで追い上げるが沖縄GK我謝の再三の好守と下地の8得点をあげる頑張りで14―9沖縄リードで前半を終了。後半に入っても沖縄ペースでゲームは進行し25―23沖縄の勝利。沖縄GK我謝の好守が光るゲームであった。

〔千葉〕	得		〔沖縄〕	得
平松	0	GK	安慶名	0
富田	0	GK	我謝	0
仲田	1	FP	吉浜	5
大鐘	0	FP	仲宗根	0
飯名	0	FP	奥間	1
澤田	2	FP	長田	4
寺田	1	FP	与儀	2
太田	0	FP	上原	0
菅沼	5	FP	下地	12
佐々木	7	FP	南風原	0
川鍋	5	FP	大城	0
福島	2	FP	島袋	1
	23			25
PT	(3)		PT	(2)

（審・浜田 小笠原）

岡山 37 （20―13、17―10） 23 茨城

〔戦評〕前半、岡山ペースで展開、14分まで5点差であったのを茨城は17分過ぎ3点差までつめよる。しかし、岡山はGK堀の好守と小橋の闘志あふれるプレーで5点連取し、一気につき離して17―10で折り返す。後半は2分過ぎで20―10と着がつき岡山にとっては楽な展開となった。茨城は岡山・中塚にマンツーマンでつくなど何んとか挽回しようとするが、功を奏さず37―23という大差で終了した。

〔茨城〕	得		〔岡山〕	得
横田	0	GK	堀	0
		GK	須田	0
安田	1	FP	小池	5
三輪	0	FP	大森	5
宜保	4	FP	小橋	13
横山	1	FP	石原	1
吉井	3	FP	同前	4
長谷川	7	FP	石原	0
滝川	4	FP	中塚	5
小島	0	FP	山本	0
海老沢	3	FP	赤木	1
		FP	丸川	3
	23			37
PT	(1)		PT	(1)

（審・南 大城）

福岡 43 （22―11、21―9） 20 愛媛

〔戦評〕ディフェンスの壁の高い福岡に対し、ポスト、カットインでどうにか壁を破り得点しようとするが、パスミスにより福岡は速攻を中心として得点を積み重ね、福岡は圧倒的な強さで前半を終了。後半に入っても福岡のペースは衰えることもなく得点を広げた。しかしながら最後まで粘り強く攻防した愛媛の健闘をたたえたい。

〔愛媛〕	得		〔福岡〕	得
大岡	0	GK	篠崎	0
先田	0	GK	森山	0
田中	6	FP	仁熊	3
和田	0	FP	清水	3
作道	4	FP	島	5
白石	1	FP	田中	4
壺内	1	FP	中島	3
長野	1	FP	浦塘	9
内山	2	FP	中山	5
野本	2	FP	牧	3
萬屋	3	FP	高田	7
		FP	白浜	1
	20			43
PT	(0)		PT	(3)

（審・古富 赤地）

準決勝

沖縄 30 （16―10、14―11） 21 愛知

〔戦評〕前半2分、愛知・井上のロング速攻で先行するが沖縄も島袋のロングで追いつく、10分過ぎまで両チームともに堅さがとれずミスが目立った。その後、愛知が先行するが沖縄・仲宗根のロングカットインなどで前半は14―11沖縄の3点リードで折り返す。後半は沖縄GKの好守からの速攻が決まりだし、徐々に点差を広げ30―21で沖縄が勝利した。結果的には沖縄の快勝であったが両チームともによく走る好チームであった。

〔愛知〕	得		〔沖縄〕	得
高橋	0	GK	安慶名	0
福山	0	GK	我謝	0
杉村	2	FP	吉浜	2
橋本	0	FP	仲宗根	6
近藤	0	FP	奥間	7
梅井	2	FP	長田	4
久本	2	FP	与儀	1
岸田	2	FP	上原	0
井上	3	FP	下地	8
笠	6	FP	南風原	0
樋口	3	FP	大城	0
難波	1	FP	島袋	2
	21			30
PT	(1)		PT	(2)

（審・大和 鈴木）

福岡 30 （14―13、16―4） 17 岡山

〔戦評〕前半開始早々、福岡が岡山のミスから速攻で2点を連取、その後も福岡は、速攻や中山のロングを中心とした攻めで着実に得点を重ねていった。岡山もポスト、サイドからの攻撃を試みるが、ミスが目立ち、シュートも福岡のGK篠崎の好守に阻まれなかなか得

〔岡山〕	得		〔福岡〕	得
堀	0	GK	篠崎	0
須田	0	GK	森山	0
小池	4	FP	仁熊	2
大森	3	FP	清水	5
小橋	1	FP	島	1
石原	1	FP	田中	4
同前	0	FP	中島	2
石原	2	FP	浦塘	4
中塚	4	FP	中山	3
山本	0	FP	牧	2
赤木	0	FP	高田	3
丸川	2	FP	白浜	4
	17			30
PT	(1)		PT	(2)

（審・川島 森）

点することが出来ず福岡のペースで試合は進行、後半は岡山もリズムを取り戻し互いに点を取り合う展開となったが、結局、福岡が前半のリードを守り切って勝利を収めた。

3位決定戦

愛　知 26〔13—11 13—12〕23 岡　山

〔戦評〕愛知の日本電装は笠を軸にした攻撃で3点連取し好調なスタートをしたかに見えたが、途中攻撃が雑になったところを岡山の速攻を許し、その上反則退場という最悪のパターンを招いた。岡山は愛知のリズムの崩れに乗じて速攻で連取し、いったんはリードしたが、リズムを取り戻した愛知・笠のミドルシュートなどで1点リードで前半を終わる。後半は愛知のGK福山の好守が光かり、接戦ながら愛知が勝利を手中にした。

得	〔愛知〕		〔岡山〕	得
0	高橋	GK	堀	0
0	福山	GK	須田	0
6	杉村	FP	小池	4
0	橋本	FP	大森	3
1	近藤	FP	小橋	6
3	梅井	FP	石原	0
2	久本	FP	同前	2
3	岸田	FP	石原	0
1	井上	FP	中塚	8
7	笠	FP	山本	0
3	樋口	FP	赤木	0
		FP	丸川	0
		〔審・大城 南〕		
26	(5)	PT	(8)	23

決勝

福　岡 29〔15—13 14—12〕25 沖　縄

〔戦評〕福岡、沖縄ともに学生を主体とした構成で、どこからでも得点できる穴のない両チーム・緊迫した中にもキビキビした動きで好ゲームが期待された。期待通り前半から両チームとも率のない攻防でミドルシュート、ポストプレー、スカイプレー、速攻などを駆使し、お互いに見せ場をつくる内容で、決勝戦にふさわしいハンドボールの醍醐味を満喫させてくれるゲームであった。また、審判のさわやかなレフェリングが目についたゲームでもあった。

得	〔福岡〕		〔沖縄〕	得
0	篠崎	GK	安慶名	0
0	森山	GK	我謝	0
4	仁熊	FP	吉浜	7
2	清水	FP	仲宗根	2
0	島	FP	奥間	3
5	田中	FP	長田	4
2	中島	FP	与儀	1
3	浦塘	FP	上原	0
4	中山	FP	下地	8
4	牧	FP	南風原	0
3	高田	FP	大城	0
2	白浜	FP	島袋	0
		〔審・浜田 小笠原〕		
29	(1)	PT	(2)	25

成年女子

1回戦

広　島（広島ハンドボールク）25〔12—11 13—6〕17 秋　田（大農OG）

〔戦評〕前半立ち上がりから地力に勝る広島が速攻やセット攻撃など多彩な攻撃を見せて優位に試合を進める。後半に入って秋田も今川を中心に互角の展開を見せるが、前半の点差を縮めることはできなかった。

得	〔広島〕		〔秋田〕	得
0	永岡	GK	鈴木	0
0	山本	GK	草彅	0
2	松本	FP	高橋	1
1	水木	FP	高田	2
0	川本	FP	後藤	5
8	猫本	FP	長沢	0
6	中田	FP	千田	2
0	今田	FP	今川	6
0	鶴田	FP	松本	1
2	三宅	FP	高階	0
5	楠	FP		
1	藤岡	FP		
		〔審・大城 南〕		
25	(0)	PT	(4)	17

三　重（ジャスコ）22〔12—10 10—4〕14 鹿児島（ソニー国分）

〔戦評〕三重のジャスコ、鹿児島のソニー国分とさすがに鍛えられた実業団のチーム。スピード、パワーにあふれたゲームで見応えがあったが、ディフェンスで勝る三重が10—4とリードして前半を終了。

後半も1点を争う激しい攻防が続くが、体力の差が出たのか、三重が前半のリードを守ってそのまま逃げ切った。

得	〔三重〕		〔鹿児島〕	得
0	小林	GK	古賀	0
0	大塚	GK		
4	今井	FP	藤本	5
4	東出	FP	平山	0
0	松村	FP	大城	1
4	稲田	FP	桑原	0
0	山田	FP	林	4
4	川井	FP	大佐	0
1	小沼	FP	東郷	0
1	徳永	FP	飯	1
0	西本	FP	安山	3
4	土師	FP		
		〔審・佐伯 宮田〕		
22	(2)	PT	(4)	14

東　京（JUKI）27〔17—7 10—7〕14 新　潟（新潟江南OG）

〔戦評〕新潟（新潟江南OG）のミスが目立ち、東京（JUKI）が逆速攻で得点を重ね、10—7と3点をリードして前半を終了。

後半、東京は足を使ったディフェンスで新潟の攻撃を許さず、GK久保の再三にわたる好守もあって大きくリードを広げて勝った。

得	〔東京〕		〔新潟〕	得
0	大角	GK	高橋	0
0	久保	GK		
8	石塚	FP	伊藤	3
7	上田	FP	古泉	1
0	樋口	FP	藤塚	7
1	田中	FP	清水	1
4	飯田	FP	阿部	0
0	武藤	FP	宇井	0
1	羽田	FP	源川	0
3	高塚	FP	結城	1
1	吉田	FP	神林	1
2	山口	FP	宇田	0
		〔審・大城 南〕		
27	(5)	PT	(2)	14

山　口（徳山ク）22〔8—8 14—9〕17 香　川（香川銀行ク）

〔戦評〕開始3分過ぎ、山口は香川の攻めの甘さを速攻につないでペースをつかみ、サイド、ポストと連続加点した。一方10分過ぎまで得点のなかった香川は、笠井のロングシュートをきっかけにポス

ト、速攻で追い上げるが、14—9と山口がリードして前半を終了。
　後半開始早々、香川・笠井のカットインでペースをつかみ、17分過ぎ2点差まで追いつくが、山口・森本の退場時に得点できず、終盤に山口に突き放された。

	〔香川〕	得	〔山口〕	得
GK	藤田	0	野村	0
	大西	0	中嶋	0
FP	谷本	0	飯田	5
	笠井	7	石田	0
	末佐	2	中嶋	6
	河野	3	中村	1
	橘	3	国沢	0
	多田	1	三崎	4
	宇田	0	山本	0
	畠山	0	末弘	0
	入江	1	植田	0
	溝渕	0	森本	6
PT	(2)	17	(1)	22

（審・佐伯・四宮）

栃木（日立栃木）28（12—4, 16—3）7 兵庫（兵庫選抜）

〔戦評〕立ち上がりお互いに固さが目立ち互角のゲーム展開となったが、栃木・飯塚のミドルシュートを中心に得点を重ね、12—4と大きくリードして前半を終了した。
　後半に入り、オフェンス、ディフェンスとも安定している栃木のペースでゲームが進む。兵庫も有馬を中心に攻めるが、栃木の堅い守りに攻め切れず、地力に勝る栃木が28—7で勝利を納めた。

	〔兵庫〕	得	〔栃木〕	得
GK	大藪	0	梅津	0
	大西	0		
FP	有馬	1	吉鶴	1
	若杉	0	神永	0
	尾上	0	神長	1
	久原	0	柳田	6
	小倉	3	飯塚	6
	原田	2	尾苗	2
	若水	1	市来	3
	磯野	0	新井	5
	中里	0	堤	2
	中尾	0	貴田	2
PT	(1)	7	(2)	28

（審・阿部羅・浜野）

大分（大分選抜）26（15—7, 11—5）12 北海道（上磯ク）

〔戦評〕立ち上がり5分頃まで両チームともに走り、お互いに得点を許さなかったが、10分過ぎから大分の落ち着いたボールまわしでコンビネーションプレーや速攻などで得点を重ねた。一方北海道もGKを中心によく守っていた。
　後半に入っても大分の円熟味のあるコンビネーションで差を広げた。北海道は、後半足の止まった大分ディフェンスを左右にふり積極的に反撃したがおよばなかった。

	〔北海道〕	得	〔大分〕	得
GK	白戸	0	都	0
			土谷	0
FP	佐々木	1	須藤	1
	長谷川	0	吉尾	1
	相馬	0	矢田	5
	藤本	1	三代	5
	佐藤	2	紀野	3
	和歌	3	島村	4
	加藤	0	阿部	0
	武田	2	祖田	0
	鎌田	0	太田	6
	山本	3	福岡	1
PT	(1)	12	(3)	26

（審・谷・山本）

2回戦

埼玉（大崎電気）23（13—8, 10—7）15 広島

〔戦評〕立ち上がり、埼玉は速攻で4—0とリードする。広島は埼玉の荒いディフェンスによる退場のスキをつき、巧技で食い下がり17分過ぎには7—6と逆にリードした。しかし、スピードに勝る埼玉が得点を重ね13—8で前半を終了。
　後半、広島はムード良くすべり出し、11—13まで追いすがるが、徐々にスタミナを消耗し、差が開く。埼玉の順当勝ちではあるが、広島の健闘を称えたい。

	〔広島〕	得	〔埼玉〕	得
GK	永岡	0	宗片	0
	山本	0	太田	0
FP	松本	0	伝法谷	6
	水木	0	藤井	2
	川本	0	杉原	2
	猫本	0	前川	0
	中田	7	梅原	6
	今田	0	江口	4
	鶴田	0	鷲宮	0
	三宅	1	野田	3
	楠	5	田中	0
	藤岡	2	福井	0
PT	(2)	15	(2)	23

（審・佐伯・四宮）

福岡（全福岡）22（10—3, 12—11）14 山形（殖銀ハンドボールク）

〔戦評〕福岡は開催地だけあって気合が入っており、GKの上野が守り、サイドの小林が速攻に出て得点を重ねていった。逆に山形は粘りのあるディフェンスを見せてくれたが、後半に入っても内村のロングシュートなどで得点をあげた福岡が勝利を収めた。

	〔山形〕	得	〔福岡〕	得
GK	後藤	0	上野	0
	高橋	0	竹馬	0
FP	新野	0	薮田	4
	新田	5	田中	1
	小高	3	田中	3
	本田	1	長澤	3
	青木	0	石田	1
	武田	1	藤	0
	瀬野	1	内村	5
	小池	1	小林	4
	中根	1	並松	1
	鈴木	1	宮本	0
PT	(3)	14	(3)	22

（審・古富・赤地）

大阪（大和銀行）21（11—7, 10—5）12 三重

〔戦評〕三重のペースで試合が始まり、5分には3—1とリードする。しかし、袰川、丸田のロングシュートが確実に決まりだした大阪が10分には5—4と逆転、その後も単調な攻撃に対し大阪は早い動きで加点し、前半は11—7で終了。
　後半に入っても大阪はロングシュート、速攻と差を広げ、粘る三重をふり切った。

	〔三重〕	得	〔大阪〕	得
GK	小林	0	増見	0
	大塚	0	岡田	0
FP	今井	0	小池	5
	東出	1	瀬川	2
	松村	0	袰川	2
	稲田	2	上村	3
	山田	3	松田	1
	川井	4	渡辺	1
	小沼	1	丸田	5
	徳永	0	西口	1
	西本	0	木瀬	1
	土師	1	又吉	0
PT	(2)	12	(1)	21

（審・四宮・佐伯）

京都（京都ク）16（7—9, 9—2）11 東京

〔戦評〕前半、京都は前に出る積極的なディフェンスを見せたが、東京は石塚のロング、吉田のカットイン、上田の速攻などで10分過ぎまでに6—2と差を広げた。京都も藤田の好リードから中尾のポストプレーなどで徐々に追い上げ

9—7で前半を折り返す。
後半に入り、京都・藤田のロングが決まりだし、また酒井の速攻などで8分に11—11の同点となる。その後一進一退の攻防を展開するが、追い上げで好ムードとなった京都が着実に加点し、16—11で京都の逆転勝利となった。

区分	〔東京〕	得	〔京都〕	得
GK	大角	0	畑添	0
GK	久保	0	山本	0
FP	石塚	3	天野	0
FP	上田	2	池上	2
FP	樋口	1	中尾	2
FP	田中	1	藤田	6
FP	飯田	1	渡辺	0
FP	武藤	0	酒井	2
FP	羽田	1	小橋	4
FP	高塚	0	審	0
FP	吉田	2	多田	0
FP	山口	0	福家	0
PT	(2)	11	(5)	16

（審・赤地 古富）

熊本（オムロン） 26 〔16—7／10—8〕 15 山口

〔戦評〕開始早々、山口はオムロンのパスの乱れを速攻につなぎ先取点をあげる。オムロンもすかさずフリースローで得点、山口は速攻とステップシュート、オムロンはロングシュート、フリースローで一進一退の攻防になるが、16分過ぎオムロンの速攻が決まりペースをつかむかに見えたが、山口もGKの好守で追い上げ10—8オムロンリードで前半終了。後半に入ると両チームの攻めのパターンが逆になり、15分過ぎオムロンは山口をつき離した。山口GKの好守が光る好ゲームであった。

区分	〔山口〕	得	〔熊本〕	得
GK	野村	0	前川	0
GK	中嶋	0	川島	0
FP	石田	4	横田	2
FP	中嶋	2	西村	4
FP	中村	0	中山	5
FP	国沢	1	武津	7
FP	三崎	2	毛利	0
FP	山本	0	比嘉	3
FP	末弘	1	坂本	0
FP	植田	1	石村	3
FP	森本	4	古田	2
FP			吉田	0
PT	(1)	15	(1)	26

（審・山本 谷）

石川（北国銀行） 21 〔10—9／11—8〕 17 栃木

〔戦評〕前半、両チームともシュートミスが目立ち互角の立ち上がりとなった。北国銀行が速攻からの得点を重ね、日立栃木も応戦し徐々に力を発揮していったが、前半11—8北国銀行リードで折り返した。後半に入り、両チームとも互角のゲーム展開で攻め、守りとも緊迫したゲームが続く。結局、前半リードした北国銀行が粘る日立栃木を振り切り21—17で北国銀行が勝利を収めた。

区分	〔栃木〕	得	〔石川〕	得
GK	梅津	0	木戸	0
GK			古澤	0
FP	吉嶋	2	上田	2
FP	神永	1	矢野	3
FP	神長	0	丹後	1
FP	柳田	3	松田	5
FP	飯塚	4	塙	0
FP	尾苗	0	松山	0
FP	市来	4	松下	0
FP	新井	3	北川	2
FP	堤	0	谷本	1
FP	貴田	0	森	7
PT	(2)	17	(1)	21

（審・大城 南）

愛知（ブラザー） 22 〔11—5／11—5〕 10 宮城（青葉ク）

〔戦評〕前半15分頃までは互角のゲーム展開、その後、宮城のディフェンスの甘さから、愛知の荒木、松尾のカットインシュートや速攻が決まり出し点差が開いて前半終了。後半、愛知のスピードに宮城はついていけず速攻がビシビシ決まる。宮城もゲームをあきらめず最後まで頑張るが、スピードとパワーに勝る愛知が逃げ切る。

区分	〔宮城〕	得	〔愛知〕	得
GK	松山	0	岡本	0
GK	今野	0	西住	0
FP	鈴木	1	荒木	7
FP	今野	0	畑中	0
FP	大沼	1	原	0
FP	大友	0	野田	2
FP	木下	2	藤江	3
FP	佐藤	0	松尾	3
FP	桜井	0	進藤	3
FP	片倉	3	甲斐	4
FP	佐藤	3	高木	0
FP	小山	0	田中	0
PT	(2)	10	(3)	22

（審・山本 谷）

山梨（シャトレーゼ） 32 〔18—10／14—7〕 17 大分

〔戦評〕立ち上がり両チームとも堅さが見られたが、シャトレーゼが大分のミスより逆速攻で得点を重ねる。大分の相手が大型チームの為、ステップシュートのみで、得点を重ねることができなく14—7で前半終了。後半もシャトレーゼは速攻、フェイントシュートと得点を重ねる。大分がディフェンスでの無理が生じ、シャトレーゼにペナルティーで多くの得点をあげられた。全体的に大味な試合であった。

区分	〔大分〕	得	〔山梨〕	得
GK	都	0	鈴木	0
GK	土谷	0	工藤	0
FP	須藤	0	小松	3
FP	吉尾	0	小俣	3
FP	矢田	3	海道	11
FP	三代	4	松沢	2
FP	紀野	2	野沢	2
FP	島村	2	小林	0
FP	阿部	0	小野寺	4
FP	祖田	1	嶋崎	0
FP	太田	3	生方	2
FP	福岡	2	合田	5
PT	(2)	17	(9)	32

（審・大城 南）

3回戦

埼玉 17 〔9—6／8—8〕 14 福岡

〔戦評〕前半、同点の得点が示すようにお互いに持ち味を出したゲーム内容であった。埼玉は相手ミスから率のない攻撃を展開、福岡はミドルシュートを駆使し、見応えのある攻防となった。後半も一進一退の内容で20分まで14—14の同点、しかし、最後疲れの見えた福岡に対して、埼玉がPTを含む連続得点で辛くも逃げ切った。

区分	〔福岡〕	得	〔埼玉〕	得
GK	上野	0	宗片	0
GK	竹馬	0	太田	0
FP	藪田	1	伝法谷	0
FP	田中	0	藤井	2
FP	田中	3	杉原	0
FP	長沢	0	前川	2
FP	石田	0	梅原	9
FP	藤	4	江口	2
FP	内村	5	鷲宮	0
FP	小林	1	野田	2
FP	並木	0	田中	0
FP	宮本	0	福井	0
PT	(2)	14	(7)	17

（審・川島 森）

大阪 24 〔12—9／12—3〕 12 京都

〔戦評〕前半、10分過ぎまで両チームに堅さが見られたが、大阪が持ち前の力を発揮し始め着実に加点し、前半で勝負を決める。京都もGKの好守で最後まで試合を捨てず大阪を苦しめた。京都の奮闘をたたえたい。

区分	〔京都〕	得	〔大阪〕	得
GK	畑添	0	増見	0
GK	山本	0	岡田	0
FP	矢野	1	小池	5
FP	池上	0	瀬川	0
FP	中尾	1	袰川	4
FP	藤田	6	上村	3
FP	渡辺	2	松田	4
FP	酒井	1	渡辺	2
FP	小橋	0	丸田	6
FP	審	1	西口	0
FP	多田	0	木瀬	0
FP	福家	0	又吉	0
PT	(5)	12	(0)	24

（審・鈴木 大和）

熊本 28 〔10—11／18—6〕 17 石川

〔戦評〕オムロン、北国銀行と日本リーグ一部同士の試合となり白熱したゲームを期待したが、地力に勝るオムロンが開始15分過ぎから多彩な攻撃で連続12得点し前半

区分	〔石川〕	得	〔熊本〕	得
GK	木戸	0	前川	0
GK	古澤	0	川島	0
FP	上田	1	横田	2
FP	矢野	1	西村	4
FP	丹後	2	中山	4
FP	松田	4	武津	8
FP	塙	0	毛利	0
FP	松山	0	比嘉	7
FP	松下	4	坂本	0
FP	北川	0	石村	3
FP	谷本	0	古田	0
FP	森	5	吉田	0
PT	(3)	17	(4)	28

（審・川島 森）

18—6で終る。後半は北国銀行もよく走り、互角のゲームをしたが28—17でオムロンが圧勝した。

山梨 23 （14—7 / 9—13） 20 愛知

〔戦評〕ポスト、ロング、PTと3連取と好スタートをきったシャトレーゼは、多彩なコンビプレーで主導権を振り、ダブルスコアーでブラザーを押えこんだ。後半に入って、ブラザーに速攻が出はじめ、さらにはステップ、サイドのシュートが決まり出し3点差まで追い上げたが、要所でシャトレーゼ・海道にPT、ロングを決められた。やっとラスト3分で2点差としたが痛恨のPTミス、あと一歩及ばなかった。

	〔愛知〕	得	〔山梨〕	得
GK	岡本	0	鈴木	0
	西住	0	工藤	0
FP	荒木	4	小松	3
	畑中	0	小俣	2
	原	0	梅道	10
	野田	3	松沢	4
	藤江	1	野沢	0
	松尾	3	小林	0
	進藤	4	小野寺	3
	甲斐	5	嶋崎	0
	高木	0	生方	1
	田中	0	合田	0
PT	(2)	20	(2)	23

（審・大和、鈴木）

準決勝

埼玉 18 （8—9 / 10—8） 17 大阪

〔戦評〕前半20分までは大阪が堅い守りで8—4とリードするも、埼玉も徐々にペースをつかみ梅原の3連続PTなどで追い上げ、前半は9—8大阪リードで終る。後半も中ば過ぎまでは一進一退であったが、16分大阪・渡辺の退場の間に初めて埼玉がリードを奪い、その後ペースをつかみ終了間際の大阪の追い上げをかわし1点差で逃げ切った。

	〔大阪〕	得	〔埼玉〕	得
GK	増見	0	宗片	0
	岡田	0	太田	0
FP	小池	3	伝法谷	0
	瀬川	0	藤井	2
	裊川	6	杉原	0
	上村	2	前川	2
	松田	3	梅原	8
	渡辺	1	江口	4
	丸田	1	鷲宮	0
	西口	0	野田	2
	木瀬	0	田中	0
	又吉	1	福井	0
PT	(0)	17	(3)	18

（審・阿部羅、浜野）

熊本 23 （13—7 / 10—9） 16 山梨

〔戦評〕前半立ち上がり、シャトレーゼはテンポの良い攻撃で3—1とリードするが、オムロンもだんだんリズムをつかみ食い下がる。一進一退の攻防が続くがシャトレーゼが2本たて続けにPTをはずすとチーム全体に少しずつ元気がなくなり、逆にオムロンが抜け出し10—7で前半を折り返す。後半立ち上がりは、相手に退場者が出たこともあり、リズムの良い攻撃でシャトレーゼが3連続得点で追いつき、この後両チームに退場者が出て一進一退が続く。シャトレーゼは3本目のPTをはずしオムロンに退場者が出るが、オムロンの動きが良くなり積極的に攻め、オムロン残り7分で5点のリードをつける。この後両チームとも得点するが、動きの積極さに勝るオムロンが23—16でシャトレーゼをしりぞけ決勝に進出した。

	〔山梨〕	得	〔熊本〕	得
GK	鈴木	0	前川	0
	工藤	0	川島	0
FP	小松	5	横田	2
	小俣	1	西村	5
	海道	5	中山	0
	松沢	4	武津	6
	野沢	0	毛利	0
	小林	1	比嘉	4
	小野寺	0	坂本	0
	嶋崎	0	石村	5
	生方	0	古田	1
	合田	0	吉田	0
PT	(2)	16	(0)	23

（審・古富、赤地）

3位決定戦

山梨 18 （8—7 / 10—9） 16 大阪

〔戦評〕大阪（大和銀行）、山梨（シャトレーゼ）と日本リーグ一部同士の試合、立ち上がり、山梨がサイド、ポストで先攻、大阪もエース丸田のロング、速攻と15分で5—5の互角の展開、ここで山梨エース海道が負傷退場、これから両チームなかなか点が入らず8—7と山梨リードで前半終了。後半開始、大阪がミドルで同点とするが、山梨が相手一人退場の間に速いパスワークからずらして確実に得点しペースをつかみ、15分で16—10とリードしそのまま逃げ切った。

	〔大阪〕	得	〔山梨〕	得
GK	増見	0	鈴木	0
	岡田	0	工藤	0
FP	小池	7	小松	0
	瀬川	1	小俣	5
	裊川	1	海道	2
	上村	2	松沢	3
	松田	0	野沢	2
	渡辺	0	小林	2
	丸田	5	小野寺	0
	西口	0	嶋崎	2
	木瀬	0	生方	2
	又吉	0	合田	0
PT	(4)	16	(3)	18

（審・川島、森）

決勝

熊本 24 （14—6 / 10—9） 15 埼玉

〔戦評〕埼玉（大崎電気）、熊本（オムロン）の決勝戦。立ち上がり両チームともやや堅さが見られたが、相譲らず前半10—9と熊本1点リードで終了。後半は開始から両チームとも動きがよくなり決勝戦にふさわしい白熱した展開となった。10分過ぎ熊本は相手ミスから速攻を確実に得点し、ペースをつかみ連続5得点、埼玉もGK宗片の好守、長身梅原のロングで必死にがんばるが、熊本のペースをかえることが出来ず、9点差で熊本が6年ぶりの優勝をはたした。

	〔埼玉〕	得	〔熊本〕	得
GK	宗片	0	前川	0
	太田	0	川島	0
FP	伝法谷	0	横田	1
	藤井	1	西村	2
	杉原	0	中山	8
	前川	2	武津	5
	梅原	5	毛利	1
	江口	4	比嘉	2
	鷲宮	0	坂本	0
	野田	3	石村	3
	田中	0	古田	2
	福井	0	吉田	0
PT	(5)	15	(2)	24

（審・高橋、森山）

少年男子

1回戦

山口（山口選抜） 28 （15—4 / 13—7） 11 兵庫（兵庫選抜）

〔戦評〕前半2分兵庫は相手ミスよりカットインシュートで2点先取。5分間得点できなかった山口、5分後縦の速攻から横へのパス、広政のロングシュート、高杉のカットインシュート、湯浅のポストシュートが8連続決まり、さすがインターハイ勝者の貫録を見せつけた。兵庫はせっかくのシュートチャンスをあせりのためか、ミスで生かせなかったのが惜しまれる。

	〔兵庫〕	得	〔山口〕	得
GK	税所	0	亀山	0
	土井	0	荻原	0
FP	伊藤	2	湯浅	4
	碇武	0	北風	0
	松本	1	清水	2
	平井	0	河内	0
	土井	0	高杉	7
	吉住	1	市妙	1
	桜井	2	広政	9
	田辺	0	木曽	0
	宮崎	1	森野	5
	小泉	4	吉村	0
PT	(2)	11	(4)	28

（審・川島、森）

大分（大分選抜） 26 （13—10 / 13—10） 20 東京（東京選抜）

〔戦評〕立ち上がり、一進一退の攻防が続き、東京が小笠原のロングで先行するが、大分はすかさず

エース穴井のステップシュートで追いつく。その後大分はロングにサイドをからめた徹底したセット攻撃に対し、東京はセット、速攻と全員がよく走り早い展開で応戦、前半大分が3点リードで終了。後半に入って、大分のロングが要所要所で決まり有利り試合を進める。しかし、東京もロング、速攻で粘り強く反撃、点差の開かないゲームになった。最後は大分のセット攻撃、特に穴井に対するマークが甘くなった所を決められた分東京は追いつけなかった。

	〔東京〕	得	〔大分〕	得
GK	梶山	0	鶴原	0
GK	小林	0	増田	0
FP	佐藤	0	渡部	0
FP	島沢	2	薬師寺	4
FP	斉藤	0	井上	0
FP	田代	1	入江	2
FP	高井	0	工藤	1
FP	高橋	3	宇多村	4
FP	山本	2	楠浦	1
FP	増井	6	穴井	14
FP	岡村	0	津野	0
FP	小笠原	6	衛藤	0
PT	(2)	20	(3)	26

〔審・大和　鈴木〕

岐阜（岐阜選抜）23 〔14－12／9－6〕 18 青森（青森選抜）

〔戦評〕岐阜、青森両チームともによく走るチームで高校生らしい好チームである。しかし、お互いに前半は堅さがとれずパスミス、シュートミスなどで連続した。終始岐阜リードで展開し、後半残り4分、いったんは青森が同点にしたが青森の守りのミスから最後点差が開いた。チーム力は互角であったがやや岐阜ペースであった。

	〔青森〕	得	〔岐阜〕	得
GK	鈴木	0	渡辺	0
GK	浅利	0	小木曽	0
FP	佐藤	7	近藤	0
FP	高谷	1	杉山	2
FP	名古屋	0	栗田	1
FP	牧野	5	上吉原	5
FP	岡村	2	長谷川	2
FP	佐々木	0	冨田	6
FP	酒田	2	加藤	0
FP	穐元	0	田中	4
FP	福田	1	清水	0
FP	山口	0	林	3
PT	(1)	18	(0)	23

〔審・川島　森〕

福岡（全福岡）27 〔14－3／13－6〕 9 北海道（北海道選抜）

〔戦評〕全福岡立ち上がりサイドシュートで先制。その後も攻めあぐむ北海道のパス、シュートミスからの逆速攻で5分後3－0で全福岡リード。その後も全福岡は巧みなセットプレー（カットイン、ポストプレー）で15分9－3とリードを広げたが、北海道も粘って左腕渡部の速攻、カットインで9－5と迫ったが、ツメが甘く13－6福岡リードで前半を折り返した。後半は全福岡3点連取し16－6の大量リード、その後も堅いディフェンスからの逆速攻で着々と加点し、27－9の一方的な展開で終えた。北海道の基本的なパス、キャッチミスが目立った。

	〔北海道〕	得	〔福岡〕	得
GK	鈴木	0	坪根	0
GK	藤巻	0	宮本	0
FP	渡部	2	古賀	1
FP	納谷	4	柳	0
FP	鳶澤	1	田中	3
FP	小椋	0	平田	3
FP	浜西	0	阿比留	4
FP	神山	2	児島	6
FP	石井	0	川崎	1
FP	新妻	0	肥山	3
FP	谷口	0	山口	4
FP	佐々木	0	中村	2
PT	(3)	9	(2)	27

〔審・浜田　小笠原〕

愛知（愛知選抜）21 〔11－10／10－4〕... 〔11－5／10－9〕 14 大阪（大阪高校選抜）

〔戦評〕立ち上がり、両チームともシュートミスが目立ち、攻めあぐむが、愛知は藤下、林のロングシュートで得点する。一方、大阪はフェイントからのカットインシュート、サイドシュートで得点し一進一退、中盤速攻を確実に得点につなげた愛知が10－9の1点差で前半を終了した。後半、愛知は山崎のロングシュートなどで4連続得点し差を広げる。大阪も必死にロングシュート、速攻で対抗するがGKの好守にあい、完全に愛知ペースの試合となる。その後も愛知は速攻、カットインシュートを確実に加点し、大阪を21－14で下した。

	〔大阪〕	得	〔愛知〕	得
GK	田端	0	小林	0
GK	福谷	0	日原	0
FP	昼野	1	丸田	0
FP	市原	2	中村	0
FP	中瀬	1	柴田	5
FP	市村	1	久野	0
FP	下山	4	山崎	6
FP	高橋	0	藤下	3
FP	水口	5	島本	1
FP	白鳥	0	林	1
FP	加地	0	中山	4
FP	中久喜	0	林	1
PT	(1)	14	(3)	21

〔審・松島　新荘〕

埼玉（埼玉選抜）23 〔14－8／9－9〕 17 愛媛（愛媛選抜）

〔戦評〕埼玉・吉岡のロングシュートで先取点、相対して愛媛もすかさず隼のブラインドからのシュートで追いついた。前半はお互いにロングシュート、速攻、ポストシュートなど多彩な攻撃で点を取り合い9－9の同点で終了した。後半に入り、攻撃力に勝る埼玉が着実に加点しゲームの主導権を握った。愛媛も速攻で追い上げたがその点差を縮めるには至らなかった。

	〔愛媛〕	得	〔埼玉〕	得
GK	石井	0	加藤	0
GK	大森	0	平賀	0
FP	城戸	0	田村	7
FP	長尾	4	二川	1
FP	高松	0	渋谷	0
FP	曽我	3	上久保	3
FP	隼	2	江湖	5
FP	中野	6	阿部	1
FP	鈴木	0	吉岡	6
FP	吉金	2	吉池	0
FP	岡田	0	羽白	0
FP	田内	0	山口	0
PT	(1)	17	(1)	23

〔審・浜田　小笠原〕

熊本（オール熊本）30 〔18－8／12－12〕 20 富山（全富山）

〔戦評〕前半立ち上がり、富山はサイドからのカットインやミドルからの得点で5点差とリードするが、熊本も富山のミスなどから速攻による得点で徐々に追い上げ、終了1分前にはダブルスカイで12－12と追いつき前半を折り返す。後半に入ると熊本の動きがよくなり、リードするが富山も食い下がる。しかし、富山は15分に2人、19分に1人退場者を出す間に熊本が7点差とリードを広げ、試合の主導権を握り、その後も速攻などで得点を重ね、結局30－20で熊本

が2回戦に進出した。

〔富山〕得	〔富山〕		〔熊本〕	〔熊本〕得
0	井畠	GK	西浦	0
0	石浦	GK	鎌田	0
1	薮下	FP	加川	3
3	藤坂	FP	益崎	7
2	中西	FP	永井	1
3	宮崎	FP	三鶴	2
3	白川	FP	浜田	3
0	河原	FP	石原	1
0	釜谷	FP	松本	4
0	岩本	FP	岩崎	2
7	荒谷	FP	森山	4
1	安部	FP	米満	3
20	(0)	PT	(3)	30

（審・松島、新荘）

神奈川（横浜商工）32〔15−3 / 17−8〕11 福島（福島選抜）

〔戦評〕前半立ち上がりから神奈川は、手渡しパスを巧みに使い、スピードあふれるボール展開から速攻を中心に得点を重ねていった。一方、福島はスピードに勝る神奈川とは対称的にボール回しがうまくいかず単発攻撃になってしまった。後半になっても、神奈川の勢いあるプレーは変わらず、前半同様相手ミスからの速攻などで一気に得点差を広げ、結局32—11で神奈川が圧勝した。

〔福島〕得	〔福島〕		〔神奈川〕	〔神奈川〕得
0	本田	GK	本郷	0
0	安田	GK	戸辺	0
0	佐藤	FP	本郷	2
1	本郷	FP	西村	9
4	小針	FP	関根	5
0	国分	FP	太刀川	2
3	佐藤	FP	後藤	2
1	増子	FP	堀川	2
0	小幡	FP	高野	6
0	岡部	FP	沢田	2
2	矢吹	FP	中村	1
0	添田	FP	高橋	1
11	(1)	PT	(0)	32

（審・中村、中川）

2回戦

山口 18〔9−7 / 9−7〕14 大分

〔戦評〕すばらしいコンビプレーで得点し好スタートを切った山口が終始ゲームをリード、中盤宇多村のロングなどで大分が追いかけ9—7で前半を終る。後半も山口が高杉のロングで先手を取り15分過ぎまで3点リード。ここから大分は猛追し1点差までつめたが、ポストのノーマークをはずして万事休した。

〔大分〕得	〔大分〕		〔山口〕	〔山口〕得
0	鶴原	GK	亀山	0
0	増田	GK	荻原	0
0	渡部	FP	湯浅	1
0	薬師寺	FP	北風	0
0	井上	FP	清水	1
3	入江	FP	河内	0
0	工藤	FP	高杉	7
5	宇多村	FP	市砂	2
0	楠浦	FP	広政	7
4	穴井	FP	木曽	0
2	津野	FP	森野	0
0	衛藤	FP	吉村	0
14	(1)	PT	(3)	18

（審・松島、新荘）

福岡 18〔6−7 / 12−6〕13 岐阜

〔戦評〕前半は両チームとも速攻、セットプレーでシュートをはずしていた。岐阜が田中のステップで先行。福岡はサイドの回しこみで追いつく。しかし、福岡はミドル、サイドなどのシュートがバーに当たり、そのミスにつけこみ岐阜が加点し、前半中盤では3—1で岐阜がリードしていた。先行されていた福岡は前半17分に逆転したが、前半残り30秒で岐阜が再逆転し前半は7—6で岐阜がリードした。後半開始早々、福岡がミスにつけこみ速攻をかけ逆転、岐阜もロングで対するが、ミスも多く、連続で福岡が速攻をかけ、結局このまま突き離し18—13で福岡が勝利した。

〔岐阜〕得	〔岐阜〕		〔福岡〕	〔福岡〕得
0	渡辺	GK	坪根	0
0	小木曽	GK	宮本	0
0	近藤	FP	古賀	1
2	杉山	FP	柳	0
0	栗田	FP	田中	0
0	上吉原	FP	平田	0
3	長谷川	FP	阿比留	0
3	冨田	FP	児嶋	7
0	加藤	FP	川崎	3
4	田中	FP	肥山	6
0	清水	FP	山口	1
1	林	FP	中村	0
13	(0)	PT	(1)	18

（審・川島、森）

埼玉 24〔10−7 / 14−8〕15 愛知

〔戦評〕立ち上がり、愛知・山崎のロングシュートで先取点、埼玉も上久保のロングで同点。その後、一進一退のゲーム展開となるが、埼玉の速攻が随所に見られ、前半は10—7で埼玉がリードして折り返した。後半に入り、埼玉の堅い守りからの速攻やスカイプレーなどで得点を重ねその差を広げていった。結局、24—15で埼玉の快勝だったように思われる。またその影にGKの好守、相手のエースを封じこめたディフェンスが目についた。

〔愛知〕得	〔愛知〕		〔埼玉〕	〔埼玉〕得
0	小林	GK	加藤	0
0	日原	GK	平賀	0
1	丸田	FP	田村	6
2	中村	FP	二川	0
3	柴田	FP	渋谷	0
1	久野	FP	上久保	4
5	山崎	FP	江湖	7
2	藤下	FP	阿部	3
0	島本	FP	吉岡	0
1	林	FP	吉池	0
0	中山	FP	羽白	3
0	林	FP	山口	1
15	(0)	PT	(3)	24

（審・吉村、秋庭）

熊本 22〔10−10 / 12−3〕13 神奈川

〔戦評〕前半、熊本の動きの悪い所を横浜4連続速攻でリードするも、熊本10分過ぎから攻撃にスムーズさが出、前半同点で終る。後半にはいると熊本のディフェンスがよくなり、横浜の攻撃が阻止されれ熊本のリズムで試合は展開される。熊本の勢いは落ちずそのまま勝利をつかむ。横浜は後半7分頃までGKがノーマークシュートを阻止しがんばっていた時に攻撃にリズムができなかったことが悔まれる。

〔神奈川〕得	〔神奈川〕		〔熊本〕	〔熊本〕得
0	本郷	GK	西浦	0
0	戸辺	GK	鎌田	0
0	本郷	FP	加川	3
4	西村	FP	益崎	6
1	関根	FP	永井	0
3	太刀川	FP	三鶴	0
1	後藤	FP	濱田	4
0	堀川	FP	石原	0
2	高野	FP	松本	3
0	沢田	FP	岩崎	1
2	中村	FP	森山	1
0	高橋	FP	米満	4
13	(1)	PT	(0)	22

（審・松島、新荘）

準決勝

福岡 18 （7—6、7—8、2—2、2—0） **16 山口**

〔戦評〕福岡は一分に先取点、その後GKの好守もあり4—0とリード、14分過ぎから山口が逆に4連取し17分に同点、その後2点ずつとり合い好ゲームとなり、前半終了2秒前に福岡が1点を加え7—6で前半を終了。後半に入り、福岡が先行するも山口もカットイン、ポストで追いつき残り30秒で速攻で1点差とするも、福岡残り4秒で同点とし延長へ。延長も福岡が先行、山口が追う形となったが、福岡のリズムが良く2点差で終了。両チームとも非常にスピードある動きで好ゲームであった。

	〔山口〕	得	〔福岡〕	得
GK	亀山	0	坪根	0
GK	荻原	0	宮本	0
FP	湯浅	3	古賀	1
FP	北風	0	柳	1
FP	清水	5	田中	4
FP	河内	0	平田	0
FP	高杉	2	阿比留	0
FP	市妙	0	児嶋	4
FP	広政	6	川崎	4
FP	木曽	0	肥山	1
FP	森野	0	山口	3
FP	吉村	0	中村	0
PT		(1)		(1)
		16		18

（審・阿部羅　浜野）

熊本 19 （11—6、8—11） **17 埼玉**

〔戦評〕立ち上がり、熊本・益崎のロングシュートで2点先取、埼玉も吉岡のロングシュートで1点差、その後、お互いに点を取りあうが熊本の堅い守りから速攻、思いきりのいいサイドシュートなどで前半を11—6で終了した。後半に入り、両チームともミスが目立ち思うように点が入らないゲーム展開となる。残り15分あたりから熊本の攻撃にミスが見られ、埼玉が速攻などで点を詰めていった。残り8分には1点差まで追い上げたが、最終的には熊本の粘りのあるシュートが決まり出し逃げ切った。

	〔埼玉〕	得	〔熊本〕	得
GK	加藤	0	西浦	0
GK	平賀	0	鎌田	0
FP	田村	4	加川	2
FP	二川	1	益崎	6
FP	渋谷	0	永井	0
FP	上久保	3	三鶴	0
FP	江湖	4	濱田	2
FP	阿部	2	石原	0
FP	吉岡	1	松本	5
FP	吉池	0	岩崎	2
FP	羽白	0	森山	1
FP	山口	2	米満	1
PT		(1)		(1)
		17		19

（審・森山　高橋）

3位決定戦

山口 19 （9—8、10—8） **16 埼玉**

〔戦評〕立ち上がり、埼玉・上久保、山口・広政と両エースの打ち合いで始まり、山口が押し気味であったが、PTなど連続してシュートミスをし逆に埼玉がリードする形で進んだ。前半20分山口は得意の速攻が出だし同点に追いつき、前半は山口が9—8とリードで終了。後半に入り、両チームとも動きがよくなり5分10—10と同点となったが、その後、山口はロング攻撃、速攻など連続して加点し優位に試合を進め、粘る埼玉を3点差で振り切った。埼玉の健闘が光った。

	〔埼玉〕	得	〔山口〕	得
GK	加藤	0	亀山	0
GK	平賀	0	荻原	0
FP	田村	2	湯浅	5
FP	二川	1	北風	0
FP	渋谷	0	清水	0
FP	上久保	5	河内	0
FP	江湖	2	高杉	7
FP	阿部	4	市妙	1
FP	吉岡	1	広政	6
FP	吉池	0	木曽	0
FP	羽白	1	森野	0
FP	山口	0	吉村	0
PT		(0)		(0)
		16		19

（審・高橋　森山）

決勝

熊本 18 （7—7、11—4） **11 福岡**

〔戦評〕少年男子決勝は、地元福岡対熊本の九州勢の対戦となった。立ち上がり、福岡は川崎のミドルシュートで先取点、さらに2点追加し好調なすべり出しであった。それに対し熊本も堅いディフェンスからのパスカット、速攻へと結びつけ、残り2分には逆転に成功した。その後、お互いに点を取り合い前半は7—7の対スコアで終了した。後半に入り、熊本は持ち前の足をフルに発揮し、攻めあぐむ福岡のミスを確実に得点に結びつけ、最終的には18—11で快勝した。

	〔福岡〕	得	〔熊本〕	得
GK	坪根	0	西浦	0
GK	宮本	0	鎌田	0
FP	古賀	0	加川	6
FP	柳	1	益崎	3
FP	田中	0	永井	0
FP	平田	1	三鶴	1
FP	阿比留	0	濱田	3
FP	児島	1	石原	1
FP	川崎	3	松本	0
FP	肥山	5	岩崎	3
FP	山口	0	森山	0
FP	中村	0	米満	1
PT		(0)		(2)
		11		18

（審・浜田　小笠原）

少年女子

1回戦

宮城（聖和学園） 14 （6—6、8—3） **9 埼玉（埼玉選抜）**

〔戦評〕前半、互いに固さが見られミスが目立つ。得点はシーソーゲームで6—6の同点で終る。後半もミスで得点は伸びなかったが、わずかにリードした宮城が埼玉の二度の退場でペースをつかみ差を開く。埼玉も何んとか追いすがろうとするがミスが重なりつめることができなかった。シュートの決定力の差で勝負がついたようである。

	〔埼玉〕	得	〔宮城〕	得
GK	山崎	0	庄司	0
GK	水野	0	今内	0
FP	浅子	2	小田嶋	0
FP	岩村	1	目黒	4
FP	浅田	0	三嶋	0
FP	伊藤	1	山口	2
FP	小堀	0	藤田	3
FP	斉藤	2	八重樫	3
FP	知久	0	石垣	2
FP	三上	0	佐藤	0
FP	前島	3	沼倉	0
FP	清水	0	安野	0
PT		(0)		(2)
		9		14

（審・竹村　坂井）

福岡（全福岡） 22 （11—5、11—9） **14 香川（香川選抜）**

〔戦評〕総合力で勝る福岡が快勝。開始早々、中野の連続得点でリズムをつかんだ福岡がよく走って前半を11—5とリード。後半もペースを崩さず粘る香川を突き離した。

	〔香川〕	得	〔福岡〕	得
GK	武田	0	黒田	0
GK	多田	0	石橋	0
FP	山本	6	中野	6
FP	谷本	1	石橋	6
FP	岩沢	0	勝見	0
FP	山田	0	鶴	0
FP	熊野	2	山川	2
FP	黒木	1	安野	3
FP	五ノ坪	1	小林	0
FP	松本	1	広橋	1
FP	熊野	0	豊岡	2
FP	橋谷	2	中田	2
PT		(6)		(2)
		14		22

（審・古富　赤地）

兵庫（夙川学院） 20 （11—5、9—8） **13 北海道（北海道選抜）**

〔戦評〕立ち上がり、北海道がカットインなどで2点連取し、前半5分3—2と北海道リード。その後、7分間両チームともミスが続き無得点であったが、15分過ぎから兵庫の速攻が決まりだし5—4と逆にリードした。その後は兵庫の動きがよくなりスピードあふれる攻撃で前半11—5で終了。後半に入って15分16—10と一進一退の攻防が続いたが、地力に勝る兵庫が粘る北海道を振り切った。

	〔北海道〕	得	〔兵庫〕	得
GK	佐藤	0	平塚	0
GK	竹原	0	中井	0
FP	森山	4	藤原	0
FP	長谷川	1	大井	1
FP	桜井	0	小山	0
FP	岡崎	4	田淵	3
FP	丸山	1	財田	2
FP	松坂	1	田口	4
FP	小島	1	碇	0
FP	三輪	1	小林	0
FP	石田	0	中尾	7
FP	山田	0	巽	3
PT	(2)	13	(2)	20

（審・竹村・坂井）

愛知（愛知選抜） 22 （9－11、13－4） 15 **石川**（石川選抜）

〔戦評〕石川は2分過ぎにGKの好守より速攻で点を取りリズムに乗り始めた。一方、愛知は山田、山川を軸にセットプレーで加点、2点差で前半を終了。後半に入り、愛知の動きがよくなりすぐに同点に追いつく。その後、山田、飯田、武藤を軸に着々と加点し、粘る石川を振り切った。

	〔石川〕	得	〔愛知〕	得
GK	小前田	0	平山	0
GK	宇野	0	山奥	0
FP	三安	1	山田	9
FP	土田	0	飯田	2
FP	山崎	0	武藤	3
FP	山本	0	加藤	1
FP	山口	4	川口	2
FP	西川	5	山川	4
FP	早崎	3	内山	1
FP	坂井	2	小林	0
FP	釣川	0	大村	0
FP	宮崎	0	丸川	0
PT	(2)	15	(0)	22

（審・古富・赤地）

熊本（熊本選抜） 19 （8－11、11－6） 17 **山口**（山口選抜）

〔戦評〕前半開始早々両チームのエースがステップシュートを決め白熱したゲームが動き出した。開始10分まで山口が押し気味に展開したが、熊本もリズムを取り戻し一進一退の攻防が続いたが、要所で山口・田村がロング、PTを確実に決め、山口が3点リードで前半を終了。後半開始早々、熊本・田中のロング、速攻が決まりだし同点に追いつく。その後、熊本のスカイプレー、山口の速攻と加点していくが、残り5分、山口に手痛い退場が出てチャンスを確実に決めた熊本が逃げ切る。

	〔山口〕	得	〔熊本〕	得
GK	嶋	0	森崎	0
GK	中川	0	竹本	0
FP	小林	2	高洲	1
FP	世良	0	日坂	5
FP	田村	10	田中	7
FP	野田	0	鶴田	2
FP	藤井	0	森下	0
FP	重国	2	田中	4
FP	吉村	0	山田	0
FP	加藤	1	白石	0
FP	栗山	0	佐藤	0
FP	面木	2	森田	0
PT	(6)	17	(4)	19

（審・高橋・森山）

東京（全東京） 20 （10－7、10－11） 18 **秋田**（大曲農高）

〔戦評〕前半立ち上がり、両チームともにシュートに正確さを欠き、秋田の退場のスキをついた東京が10－7と3点リードして前半を折り返す。後半に入り、秋田は千田のロング、中村のPTなどで18分には17－17の同点に追いつくが、東京が速攻で加点、秋田の必死の追撃をかわして逃げ切った。

	〔秋田〕	得	〔東京〕	得
GK	武藤	0	山田	0
GK	伊藤	0	小泉	0
FP	高橋	3	水井	3
FP	千田	5	永尾	4
FP	中村	5	石原	4
FP	高橋	1	和久田	2
FP	板谷	3	関	2
FP	小野寺	0	山田	0
FP	細井	0	子安	0
FP	小友	0	細川	1
FP	佐藤	1	井出	1
FP	武藤	0	吉川	3
PT	(4)	18	(3)	20

（審・吉村・秋庭）

千葉（千葉選抜） 15 （7－6、8－7） 13 **静岡**（静岡選抜）

〔戦評〕両チームともに前半立ち上がりからミスが目立ち、なかなか得点にならなかった。千葉は静岡のGK川端にシュートを止められなかなか得点チャンスを生かせない。また、静岡は千葉のディフェンスを崩せず、7－6と千葉が1点をリードして前半を折り返した。後半、静岡もディフェンスを固めて千葉のミスを誘ったが、後半終盤でのミスがあり、15－13で千葉が逃げ切った。

	〔静岡〕	得	〔千葉〕	得
GK	加藤	0	村上	0
GK	川端	0	佐藤	0
FP	川島	2	嶋本	3
FP	柴戸	6	山下	3
FP	柿下	3	中村	3
FP	岡田	0	星	2
FP	大倉	1	田上	2
FP	秋保	0	山本	2
FP	大竹	1	大野	0
FP	吉野	0	細井	0
FP	加藤	0	倉本	0
FP	井手	0	永井	0
PT	(2)	13	(3)	15

（審・森山・高橋）

大阪（大阪選抜） 22 （12－4、10－7） 11 **沖縄**（沖縄選抜）

〔戦評〕大型チームの大阪に対し小ぶりな沖縄。大阪は守って速攻につなぎ着々と加点する。また、遅攻でも木口のロングを軸に実に安定した攻撃を見せる。沖縄もよく動くが、いかんせん相手が大きい。後半、沖縄も池原の活躍で点を取り合いとなる。しかし、前半のリードで余裕のある大阪がリードを守ってそのまま逃げ切った。

	〔沖縄〕	得	〔大阪〕	得
GK	森田	0	上田	0
GK	小橋川	0	松尾	0
FP	伊波	0	稲次	1
FP	比嘉	1	木口	4
FP	池原	3	荒川	6
FP	当原	0	水田	1
FP	比嘉	2	関	0
FP	新垣	1	中里	3
FP	松田	1	竹田	2
FP	豊里	0	棟田	3
FP	比嘉	1	橋本	0
FP	池宮城	2	山形	2
PT	(1)	11	(4)	22

（審・吉村・秋庭）

2回戦

宮城 16 （7－4、9－6） 10 **福岡**

〔戦評〕前半、両チームともによく動いたが、お互いにミスが目立ち、リズムに乗れなかった。福岡はミドルシュートを多用、宮城はカットイン、ポストを使った攻撃を見せ、7－4と宮城のリードで前半を折り返す。後半、福岡の退場をきっかけに宮城のペースかと思われたが、20分まで福岡のふんばりで接戦となったが、最後は力の差が出たゲームであった。

	〔福岡〕	得	〔宮城〕	得
GK	黒田	0	庄司	0
GK	石橋	0	今内	0
FP	中野	2	小田嶋	0
FP	石橋	0	目黒	4
FP	勝見	0	三嶋	0
FP	鶴	0	山口	3
FP	山川	3	藤田	2
FP	安野	1	八重樫	1
FP	小林	0	石垣	6
FP	広橋	1	佐藤	0
FP	豊岡	0	沼倉	0
FP	中田	3	安野	0
PT	(1)	10	(3)	16

（審・竹村・坂井）

愛知 19 （10－6、9－11） 17 **兵庫**

〔戦評〕兵庫が先制するも愛知が3連取で逆転。愛知は全員がよく動き、20分には9－3とリード、楽勝ペースかと思われたが、兵庫が粘りをみせ後半に望みをつないだ。しかし、後半立ち上がり兵庫は大事なところでミスが続き、追いつくチャンスを失ってしまった。一方、小柄な愛知であるが、山田を中心にのびのびとしたプレーで得点ペースが落ちず、追いすがる兵庫をふり切った。

	〔兵庫〕	得	〔愛知〕	得
GK	平塚	0	平山	0
GK	中井	0	山奥	0
FP	藤原	2	山田	7
FP	大井	2	飯田	3
FP	小山	0	武藤	1
FP	田淵	10	加藤	2
FP	財田	0	川口	4
FP	田口	2	山川	2
FP	碇	0	内山	0
FP	小杉	1	小林	0
FP	中尾	0	大村	0
FP	巽	0	丸川	0
PT	(2)	17	(1)	19

（審・大和・鈴木）

熊本 20 （8－10、12－6） 16 **東京**

〔戦評〕熊本はダブルポストからローリングで多彩なセット攻撃を展開。東京はセンタースリーからずらしロングで攻撃。熊本がセッ

トで加すれば、東京はよく走って速攻で得点、前半10—8と東京が2点をリードして終了。後半、熊本が3点連取して逆転、東京が追いかける展開となるが、残り6分まで同点と一進一退の好ゲーム。しかし、地力に勝る熊本が残り5分で5点連取しゲームセット。

得	〔熊本〕		〔東京〕	得
0	森崎	GK	山田	0
0	竹本	GK	小泉	0
2	高洲	FP	水井	0
0	日坂	FP	永尾	3
7	田中	FP	石原	3
1	鶴田	FP	和久田	2
2	森下	FP	関	2
7	田中	FP	山田	1
1	山田	FP	子安	0
0	白石	FP	細川	4
0	佐藤	FP	井出	0
0	森田	FP	吉川	1
20	(3)	PT	(0)	16

〔審・竹村・坂井〕

大　阪 19 (8—7, 11—8) 15 千　葉

〔戦評〕立ち上がり大阪は左腕エース・木口のロングが冴え、着々と加点。一方千葉は7分まで大阪のうまいディフェンスに阻まれ、なかなか得点できなかったが、星のカットインシュートをきっかけに追い上げ、前半を8—7と1点差で折り返す。後半立ち上がり、ペナルティスローなどで得点を重ねた大阪が、ディフェンスに工夫した千葉をふり切った。

得	〔大阪〕		〔千葉〕	得
0	上田	GK	村上	0
0	松尾	GK	佐藤	0
4	稲次	FP	嶋本	2
6	木口	FP	山下	3
5	荒川	FP	中村	3
0	水田	FP	星	2
0	関	FP	田上	1
1	中里	FP	山本	0
2	竹田	FP	大野	0
0	棟田	FP	細井	3
1	橋本	FP	倉本	0
0	山形	FP	永井	1
19	(4)	PT	(4)	15

〔審・大和・鈴木〕

準決勝

宮　城 16 (7—11, 9—2) 13 愛　知

〔戦評〕速攻とカットインの愛知、セット攻撃の宮城と対象的なチームの対戦。両チームともに持ち味を出したゲームであったが、スピードに勝る愛知が11—7で前半を終了。後半に入ると宮城のロングが決まりだし、13分には12—12と同点とし、16分にはPTで勝ち越し、その後3点を加え宮城が勝利を得た。

得	〔宮城〕		〔愛知〕	得
0	庄司	GK	平山	0
0	今内	GK	山奥	0
0	小田嶋	FP	山田	3
3	目黒	FP	飯田	4
2	三嶋	FP	武藤	2
3	山口	FP	加藤	1
2	藤田	FP	川口	0
1	八重樫	FP	山川	3
5	石垣	FP	内山	0
0	佐藤	FP	小林	0
0	沼倉	FP	大村	0
0	安野	FP	丸川	0
16	(3)	PT	(1)	13

〔審・阿部羅・浜野〕

大　阪 20 (10—9, 10—4) 13 熊　本

〔戦評〕両チームとも動きが速くディフェンスからの速攻が持ち味。セットでもクロスプレーからのロングシュート、ポストカットインなど多彩な攻撃を見せる両チーム、前半は一進一退の攻防で、10—9と大阪が1点リードして折り返す。後半に入り、セットでの攻撃に勝る大阪が徐々に点差を広げ、20—13で快勝した。

得	〔大阪〕		〔熊本〕	得
0	上田	GK	森崎	0
0	松尾	GK	竹本	0
1	稲次	FP	高洲	2
8	木口	FP	日坂	2
4	荒川	FP	田中	5
0	水田	FP	鶴田	0
1	関	FP	森下	2
1	中里	FP	田中	2
3	竹田	FP	山田	0
0	棟田	FP	白石	0
1	橋本	FP	佐藤	0
1	山形	FP	森田	0
20	(1)	PT	(1)	13

〔審・高橋・森山〕

3位決定戦

愛　知 23 (9—8, 14—9) 17 熊　本

〔戦評〕両チームともミスが目立ち、速攻を中心に攻撃するが、これ一番のディフェンスがなく、9—8で愛知の1点リードのまま後半戦に入った。
後半に入り、愛知はミドルシュートで得点を上げ、徐々にペースをつかみ、熊本のミスから速攻につなぎ得点を広げていった。熊本も懸命に追い上げようとするが、オーバーステップの判定により反撃ならず、後半ペースをつかんだ愛知が制した。

得	〔愛知〕		〔熊本〕	得
0	平山	GK	森崎	0
0	山奥	GK	竹本	0
9	山田	FP	高洲	1
2	飯田	FP	日坂	0
4	武藤	FP	田中	8
1	加藤	FP	鶴田	1
2	川口	FP	森下	4
4	山川	FP	田中	2
0	内山	FP	山田	1
1	小林	FP	白石	0
0	大村	FP	佐藤	0
0	丸川	FP	森田	0
23	(3)	PT	(3)	17

〔審・南・大城〕

決勝

宮　城 11 (6—5, 5—5) 10 大　阪

〔戦評〕大阪は木口をマンツーされ攻めが思うにまかせず、一方宮城はロング、PT、カットインなどで中盤までリードするが、大阪も連続速攻で追いつき、6—5と宮城リードで前半を終了。
後半4分過ぎ、大阪は速攻で連続2得点をあげ逆転するが、宮城もすかさずサイドシュートで追いつき、一進一退のゲームが展開される。終盤、大阪が速攻で2点をリード、逃げ切るかに見えたが、残り1分を切って宮城がロング、ポストで遂に逆転勝ちを収める。

得	〔宮城〕		〔大阪〕	得
0	庄司	GK	上田	0
0	今内	GK	松尾	0
0	小田嶋	FP	稲次	2
5	目黒	FP	木口	1
0	三嶋	FP	荒川	2
0	山口	FP	水田	0
1	藤田	FP	関	1
2	八重樫	FP	中里	1
3	石垣	FP	竹田	0
0	佐藤	FP	棟田	0
0	沼倉	FP	橋本	1
0	安野	FP	山形	2
11	(2)	PT	(1)	10

〔審・森山・高橋〕

第11回アジア競技大会選手団レポートから

大会で学んだものを生かし オリンピック出場権を獲得しよう

前号でお伝えしましたように、第11回アジア大会で日本は男子は第2位、女子は第5位という結果でしたが、ここに大会に参加した男女各選手団の感想文を紹介致します。この感想文につきましては、こちらからテーマを分けてお願いして書いてもらったものですが、残念ながらすべての方に書いていただけませんでした。ここに紹介致しますのは、11月末までにお寄せいただいたものです。

男子選手団

アジア大会を振り返って

コーチ　蒲生晴明

今回の北京アジア大会は、中東イラク問題で大会の直前まで出場の可否をめぐり、議論がなされたが、結局、イラク出場を認めないという結論に達した。けれども、我々ハンドボール（男子）競技については、この問題により、競技開始の直前まで対戦相手・日程が決定しないという事態のまま選手村に入村することになってしまった。

そして、競技開始の前日にやっとスケジュールが決定した訳だが、まさかとは思っていたが、何んと第1戦が我々のターゲットである韓国であった。1年前のアジア選手権（北京）で「金」、「銀」になっている国の対戦が第1戦とは……。何が起こるかわからないのがアジア大会であると思い知らされた次第である。

いずれにせよ、日程が決定し、第1戦が韓国であったということは、良い意味で互いの戦法を探り合いをせずに、この一戦に出すことができるのは有り難いことであった。そして、ゲームの内容については、今までトレーニングをしてきたことが、十分とはいえないが、まずまず発揮できたと思っている。

結果は、1点差で敗れ期待に応えることができず、大変残念に思っている。しかし、1年前の対戦では、日本が3点リードから、7連続失点を韓国に許してしまい、そのままのペースでゲーム終了、敗退してしまったが、今回は、途中7点のアヘッドをディフェンスの踏張りから、速攻につなげ、セットにおいても、ロング・サイド・カットインと総合的にトレーニングの成果を発揮して、終了5分前にタイスコアーに持ち込み、2度の同点後、1点差で惜敗となった。

また、中国戦についても、大型化を図りパワーを使ったオーソドックスなヨーロッパスタイルの戦法であったが、これまた、ディフェンスからの速攻が冴え、快勝であった。

サウジアラビアについては、デンマークからコーチを招き、ポストプレーを中心にスローテンポのスタイルで確実なプレーを行ない、ロースコアーに持ち込む戦法のチームであったが、今後も、侮れない存在である。

北朝鮮は、数年前にクウェートで対戦して以来であったが、著しい成長をしており、今後の強化により更に手強い相手となりそうである。

このように、アジア各国はかなりの強化をしており、大会ごとに力をつけてきている。しかし、我々は、参加国・対戦国の情報不足や、刻々と変る国際情勢に振り回されながらの対戦になり、我々チームとしては、その場その場の対応になってしまっているのが実態である。今後は、十分に情報を集めていきたい。

結局、最終戦のアラブ首長国連邦との対戦を終え、4勝1敗で「銀メダル」に終ったが、今年6月に実施した自衛隊での「降下訓練」等により、確証するのは難しいものの、選手たちのメンタル面に何らかの影響があり、以来、個々人の着実に自信がついてきて、8月のグッドウィルゲームでは、6年ぶりに韓国に勝ち、実に今回も1点差に追い込んでの惜敗であった。

そういった意味で、スタッフも選手も、来年の広島でのバルセロナ・オリンピック予選に向け、この悔しさを日々のトレーニングの励みとして、この雪辱を本番にて期するべく、チャレンジャーとして臨めることを、良い意味でうれしく思う。しかしながら、この1点という重みを十分に理解し、韓国・中国以上のトレーニングをつんで、オリンピック予選に向かって行きたいと考えておりますので、日本協会をはじめ関係の方々のご支援・ご援助をよろしくお願いします。

チームドクターとして

敦賀一郎

我々の病院が全日本ハンドボールチームのチームドクターを務めるようになりはや1年以上が過ぎた。この間、昨夏北京でのアジア選手権を皮切りに、いくつかの国際試合に同行してきたが、今回は私がアジア大会に同行させていただいた。私にとっては初めての海外遠征参加であり、不慣れなことも多く関係諸氏にご迷惑をかけたことをお詫び致します。

しかしながら、いつも診療の場ではスポーツ選手を診ることは多

くとも、3週間近く選手たちと生活を共にし、実際の練習や試合の場をまとまって見れたことは、今後スポーツドクター、さらにはハンドボールのチームドクターとして活動していくうえで有意義であった。

今回の遠征で先ず気づいたことは、思った以上に慢性的な障害を持つ選手が多いという点である。たとえば、足関節の靱帯損傷をとってみると、女子の半数、男子の2名に認められた。やはり常にテーピングを必要とするような故障は、ジャンプ力や俊敏性の低下を招き、ひいては他部位の故障も生じやすいと考えられ、できるだけケガはその時その時に治しておくことが望ましい。特に半数以上が中・高生の時期に受傷しており、中・高生の指導者に、短期間に鍛えなくてはいけないという制約もあるだろうが、宜しくお願いしたい。また、故障のあった箇所は再発しやすいので、良くなっていても練習前後のストレッチ、練習後のアイシング、同部のウエイトトレーニング等も考慮していただけたらと思う。

選手村での食生活では、本部から生水は当然としても、ミネラルウォーター、コーラ等の飲料水、生野菜も食べるのを控えるように注意があった。衛生面での心配もわかるが、あまり禁止禁止では、日本人の口に合わない食べ物も多い外国ではかえってストレスがたまることもあり、難しい問題である。

また、今回は天候に恵まれ、逆に乾燥しすぎ、終盤には喉を痛める者が多く、持参した薬では足りなかった。市販薬ではドーピングに引っ掛かる恐れもあり、いつも持っていく薬の量には悩まされるが、今後は遠征先の季節・天候ももっと考慮すべきと反省させられた。

しかし今回は、男子では膝蓋骨骨折直後の玉村、大腿を2度も打撲した酒巻、女子では壮行試合で膝を捻挫した梅原等主力に故障者が多いなか、皆良く頑張ったと思う。これを糧にして、来年広島で開催されるアジア選手権を目指し、今回は聞けなかった国歌を聞くことができ、バルセロナへの切符を手にしてほしい。我々も今までの経験を基に広島ではより一層のバックアップができるよう努力したい。

アジア大会に参加して

斎藤 慎太郎

まず最初に、開会式に関して自分の意見を述べると、非常に盛大なセレモニーであれだけの大人数を集めての人文字応援や各種のマスゲームなどは、一見とても規律が整っていて整然と行なわれていたように見えたが、実際にはワイワイガヤガヤした自己主張のある応援風景はそれほど見られず、半強制的にそういったことをさせられているといった風な感じを開会式だけでなく各試合の会場でも受けた。しかしそういった反面、中国国民がこの大会にかける意気込みは、彼らの金メダル獲得数に見られたと思う。断突で1位となったメダル数は、このアジア大会を成功に終わらせた要因であった。日本が東京オリンピックで勝つことによって国意向揚を行なったように、中国もこの活躍によって国民の意気が高まっていき、アジア大会が成功していったのではないだろうか。

また、今回入居した選手村は今までの中国には見られなかった高層建築のマンション風のもので、1室が3部屋に区分けされており、そこに4人が入る形になっていた。部屋自体は広くて快適であったが、新築というのにトイレが壊れてしまい水があふれ出してしまったということもあった。が選手村内全体を通してみると、食事も少々油っこいのを我慢すれば食べれるし、洗濯場も広くて一度に大人数の洗濯もできるので不便なことはなく生活できた。

試合の方では目標であった金メダルには惜しくも手が届かなかったが、一番焦点を合わせていた韓国戦では前半ハンディを4点背負いながら、後半の最後に追いついたというのは収穫があったと思う。だが今回でも自分らの簡単なミスで相手に楽に得点を与えてしまうといったケースが多くみられ、その場面を少しでもなくしていかない限り勝ちにはつながらないし、今後も韓国と日本は1点、2点の勝負になってくると思う。それを考えると、一つのパスやシュートについてもイージーなミスは絶対に出すことのないようにしなければならない。

その他のチームで注目しなければいけないのは、着実に力をつけてきている中国が挙げられる。総合的な力から見れば日本、韓国にはまだ劣っているのだが、個人の基礎的な体力についてはフェイント力、シュート力など日本、韓国に勝るとも劣らないところまで伸びてきているようだ。

それらを考えると日本がアジアを勝ち抜くためにも韓国だけでなく中国対策も十分に考えておく必要があると思う。今回は中山選手が活躍したこともあり次にあたった時には当然マークもきつくなってくると思われる。そういった時にどうするかといったことを対策として練ることも重要な課題であるし、今後個人の意識の中にも入れておかなければならないことである。

アジア大会に参加して

酒巻 清治

待望のアジア競技大会が平成2年9月22日北京工人体育場に於い

て開会されました。

我々日本選手団は、正午過ぎに選手村中庭に集合し入場行進用の日の丸と中国国旗（五星旗）を手渡され、日本選手団指定のバスに乗り込み一路工人体育場へ向かいました。

この際日本の役員の方から、五星旗を渡された者は必ず左上の星の所を持つようにと注意され、面倒なことだと思いましたが、そうしないと中国国民は侮辱されたと受け取るらしく、冗談まじりに国際問題に発展しかねないと首をすくねたものでした。

30分ほどで工人体育場に到着、1時間ほど待たされ日本選手団入場の順番がやって来ました。古橋廣之進団長以下、677名の役員・選手が、佐藤伊知子旗手を先頭に男性はモスグリーンのブレザーに白のスラックス、女性はピンクのスーツに白のポーチを肩から掛け堂々行進しました。日本選手団はいうまでもありませんが、各国ともなかなかファッショナブルで大変楽しませてくれました。

日本選手団はグランド内ほぼ中央に位置し、中国選手団入場まで待ったわけですが、VIP席に向かって左側の観客席最上段に巨大なスクリーンが設置されており、各国の入場行進の様子が画面一杯に写し出されました。

中東問題で揺れる国々の入場行進に興味があったので、スクリーンに注目していたところ、クウェート選手団には盛大な観声が上がり、中国国民にも感心の高い出来事であるということがわかりました。他に北朝鮮・香港・台湾等が入場して来た時にも観声が上がり、アジア地域の競技大会らしさが出てるなと感じさせられました。

慣例通り式典が終了し各国選手団は観客席に上げられ、集団演技を観ることになりました。全世界の人口の4分の1を占めるといわれる中国の集団演技らしく、2万人近い演技者がグラウンドを埋めつくし一斉に演技を行なうような圧感で、部分部分の失敗はあったものの圧倒的な数の演技の前にはかき消されてしまいました。

次回は広島で行なわれることが決定しているのでついつい置き換えて考えてしまうわけですが、他の部分はともかく、華やかで迫力のある北京大会以上のものができるのか、少し不安が残ったのも正直なところでした。

韓国戦を振り返って

玉村健次

日本と韓国の試合は、イラク、クウェートの不参加で、組み合わせが1回戦総当たりに変更となり、大会第1日目に行なわれた。日本チームは、先のグッドウィルゲームで、7年ぶりに韓国から白星を握っていて、今大会も韓国を下し、念頭の金メダルを取るために全員燃えていた。

対する韓国も、グッドウィルズゲーム時のメンバーに、姜在源などオリンピック銀メダリストを入れ、雪辱を果たそうと意気込んでの戦いであった。

立ち上がり日本が先行し、がぜんムードは盛り上がったが、韓国も負けず得点し、一進一退の攻防が続いたが、韓国13番姜在源を中心とした攻撃に、ディフェンスを崩され、連続得点を許してしまい、前半は韓国の4点リードで終った。

後半に入っても、韓国が有利に試合を展開し、日本が追う形となったが、韓国ゴールキーパーにシュートを阻まれ、点差はちぢまらず、7点差をつけられた時は万事休したかと思われたが、後半15分すぎから韓国のミスで日本がペースを握り出し、速攻、ポスト、サイド攻撃などで、点差をちぢめていった。

ディフェンスでも、よく足が動き、韓国の速い攻撃をよくマークしていた。

残り1分で同点になり、果然日本が押し気味に試合を進めたが、韓国3番に中央からシュートを打たれ、ゴールキーパー橋本の手に当たったが、得点になってしまい、それが決勝点となり、日本は1点差で惜敗した。

結果的には1点差であったが、試合の後半の中盤での7点差は致命傷であり、韓国が次の攻撃でミスをせずに得点していたら、点差はちぢまらなかったかもしれない。しかし、試合の終盤に見せた日本チームの底力には素晴らしいものがあり、韓国のどの選手も顔色がなく、あせりを生じていたのも事実であった。

今回の試合での反省を生かし、来年のオリンピック予選では絶対に勝ちたいし、また今回ケガでチーム等に迷惑をかけたので、早く体調を戻し、チームに貢献できるよう努力します。

対サウジアラビア戦

河原隆雅

第11回アジア競技大会が、9月22日の開会式とともにその幕をあけた。私たち全日本ハンドボールチームも、9月21日より北京選手村に入村し、この大会に備えた。

イラクのクウェート侵攻による影響で、クウェート、イラク共に不参加となったため、対戦相手が大幅に変更になり、予選リーグ決勝トーナメント方式から総当り戦と変わり、初戦9月27日に韓国と対戦することになった。韓国には今年7月末にグッドウィルゲームズで対戦して勝っている。これは公式戦では1982年に勝って以来の久しぶりの白星であった。しかしアジアで王座に立つためには、やはり宿敵韓国に勝つことが最大の難関である。私たちは、チーム一丸となって初戦の韓国に臨んだが、26対25の1点差で敗れた。負けたことによって自力優勝はなくなった日本チームは残り試合を大切に、一戦一戦を戦っていけばまだ優勝のチャンスはあるという気持ちで9月29日に第2戦サウジアラビアと対戦した。

サウジアラビアとは、昨年の世界選手権アジア予選の時対戦し、大差で勝ったチームであるが、試合前のミーティングでは次のような注意点が挙げられた。まず第一に自分自身に勝ち、自分たちのプレーが出せるようにすること。第二に受け身にならず、攻めることによって自分たちのペースをつかむ。第三に、簡単なプレーをより正確に。第四に力を抜くことなく全力を尽くすことなど、どの試合にも共通の重要な注意点ばかりであった。

しかし、いざ試合に入ってみるとかなりのスローペースな試合で、日本チームは相手のペースに飲まれ、なかなか流れをかえることができない。昨年の試合時のメンバーの顔ぶれとほとんど変ってはいなかったものの、ヨーロッパからコーチを呼んだせいかかなり強化しているようだ。前半終って見れば9対7で勝ってはいるものの負けているような気分である。ハーフタイムのミーティングの際、試合の流れがスローペースで自分たちのペースがつかめないのであれば、もっと流れが速くなるように

フリースローボールを速くポイントに置いたりして、自分たちでもっと速い試合展開に持っていこうという作戦を立てた。

後半が始まり、サウジアラビアは速い攻撃といえばカットからのワンマン速攻ぐらいで、後はセットで揺さぶりながらパッシングプレーをとられないようにうまくフリースローでボールを長くマイボールにして攻撃を繰り返してくる。一方、いざ日本がマイボールにし速い流れにしようと速攻に出れば、シュートミス、パスミス、キャッチミスなどのミスで悪循環になりなかなか点差を広げることができず、後半も残りわずかの所で1点差、2点差の勝負になってしまった。結局18対16の2点差で逃げ切ったものの、試合が終ってみれば反省点の多い試合であった。

試合前のミーティングで話し合ったことがほとんど実行できなかった。もっとミスを少なくし、得点できる所で確実に得点していかないと、サウジアラビアのようなスローペースのチームには、また同じような結果になりかねない。今大会でサウジアラビアは、日本、韓国に敗れたものの中国に1点差で勝ち3位に入賞を果たし、今後さらに成長してくるチームだと思う。それに太刀打ちするためにも、私たちは、試合1時間に集中できるよう、ボールに執着心をもち、相手に勝つためにもまず自分に勝てるように、今後より一層頑張りたいと思います。

対サウジアラビア戦

甲斐章義

韓国に1点差で敗れはしたが、まだ大切な中国戦を含めて4試合あり、韓国も日本同様中国戦を最終日に控え4試合残していた。韓国もどこで転ぶかわからないし、日本も最大の目標の韓国戦が終ったからといってこの先まだ気は抜けなかった。つまりまだ金メダルの望みはあった。そのことはスタッフも強調しており、また選手一同も十分理解していた。

そして、9月29日サウジアラビア戦、とにかく第2戦ということでこの後の試合も波に乗れるように白星をここで確実に取っておこうというスタッフの言葉で、日本は前半から気を入れて勝負をかけにいったが、韓国戦の時のような戦いぶりは見られなかった。

ディフェンスもオフェンスもまるでコンビがとれず、空回りしたかのように日本のリズムには乗れなかった。確実にセーフティーゾーンをキープしようとしすぎたのか、シュート力があるのかないのかわからない相手に無造作につめてしまったりしていた。そこで、日本ディフェンスの弱い大型のポストマンにパスを落とされ強引にもっていかれるケースがあった。ロングを打たせて様子を見ることも必要だったのではないかと思われる。

長くボールを持たれサウジアラビアが攻めあぐんでいる時、相手のプレーを長く見すぎていた。その結果、オーバーステップぎみのフェイントやカットインで点を取られレフェリングにも悩まされた。ここまでは、サウジアラビアの持ち味は十分に発揮されていたように思う。と同時に日本のミスが多かった。

しかし後半からは日本はセットオフェンスで点を取られた回数は少なかったように思う。サウジアラビアのポイントをしっかり読んで潰していた。同じパターンで点を取られることはなかった。

この後もリードはしていたが、最後までサウジアラビアが食いついてこれた理由として、オフェンスのミスが多かったのが挙げられる。ポストとのコンビに頼りすぎて結局ポストだけを見るディフェンスをされていた。また、シュートミスも多く、次の中国戦を意識しすぎた気配もあった。もっと簡単なプレーで点は取れたと思う。サウジアラビアに対する攻め方ではなかった。

試合結果は2点差で辛くも逃げ勝った。これは勝負どころを把握して、そこは確実に点を取っていたからだと思う。

しかし、このサウジアラビア戦はこの先まだ4試合なにが起こるかわからないということを教えさせられた試合であり、次の中国戦でサウジアラビア戦の反省が生かされたことはたしかであったと思う。

対中国戦

魚住和彦

初戦の韓国を接戦の末、1点差で落としてしまい、当初の目標であった金メダルが、危うくなった。

2試合目のサウジアラビア戦は、楽勝で勝てると思ったが、思っていた以上にサウジの善戦に合い、2点差で辛くも勝利を得た。

そして、3試合目、中国戦を迎えた。金メダルを狙う全日本チームとしては、絶対に落とすことができない試合となった。

中国は、1、2戦を大差で勝って来ており、それに開催国とあってムードは最高潮に達しての試合となった。チーム自体もベテランと若手がうまく噛み合い、前の試合では調子にのせたら手のつけられない場面が見られた。でも、対戦相手のDFの弱さもあってか、そんなに強いチームという印象はなかった。

ゲーム前のミーティングでは、攻撃は、リズムを大切にすること、守りでは、掴えに行くのではなく、打たせてマイボールにすることなどがあげられた。しかし最終的には、勝利という結果を出さないとしょうがないので、一致団結して

頑張ろうということだった。

試合は、予想通り大観衆のほとんどが、中国側応援という中で始まった。中国の攻めは単調で、13番のきっかけからの攻撃、45度やサイドが切っての攻撃がよく見られた。DFは、ボールに対しての寄りが早く、早目にチェンジして来た。型として一・二・三のDFをひいていたものの、すごく広く感じられた。よって全日本の攻撃では、簡単な切り返しがよくきいていた。

全日本は、DFが好調で、よく足が動いており、練習でやった2対2の壁を崩さないということもしっかりできており、打たせてキーパーが取るという守りができていたと思う。DFが良いと、おのずと攻撃も良くなるわけで、中山のロングに始まり、甲斐のフェイントプレー、酒巻さんのカットインプレーと多彩な攻撃で点数を重ねていった。

常にリードする形となり、終って見れば、前半12対16、後半9対13、合計21対29と、予想以上の点差がつき完璧な勝利といえる試合となった。

中国としては、ここまで離されるとは思わなかっただろう。来年のアジア選手権を控えて、全日本としては中国に対し、強い全日本を見せつけられたと思う。

対北朝鮮戦　宮下和広

私たちは、2勝1敗でこのゲームを迎えたわけですが、選手全員対戦するのは初めてでどんなチームなのかもわからなかった。

とりあえず、試合観戦をして感じたことは、雑ではあるが、速攻が早く、クロスプレーやショートスカイなどを主体に攻めてくるチームで、自分たちとしては守りでは、自分のマークをしっかり取り2対2のラインを崩さずに守れば相手が勝手にミスをしてくれるので、この部分を撤底した。

そして、攻めでは、簡単なことを確実にプレーすること。

あとは、韓国が負ければ得失点差で、金メダルの可能性も出てくるのでとにかく点を取らなければいけなかった。

ゲームが始まり、点を取らなければという焦る気持ちを知っているかのようにショートスカイを数本決められ自分たちのペースをつかめず、チームにとって勢いの欠ける展開になってしまった。

そして、ハーフタイムでは思っていた通り〝カツ〟を入れられ後半に臨んだ。

しかし、審判のホイッスルも手伝ってか後半になっても何かしっくりこないゲーム内容で、点差は33対17と開いたものの、しっくりこないゲームとなってしまった。

前試合が中国戦でそれに勝てたので、気持ちのどこかでホッとしてしまっていたのだと思う。やはり国と国との戦いなので、どんな相手でも気を引き締めて取り組まなければ今回みたいなピリッとしないゲームになってしまうような気がします。

対アラブ首長国連邦戦　秋吉哲男

アラブ首長国連邦戦は、日本が平均身長で上回るばかりか、スピード、テクニック、パワーも一枚上だった。

試合内容は、最終戦ということもあり、メンバー全員気迫がみなぎっていたが、試合の開始早々は、その気迫が空回りして、得点が伸びなかった。

しかし、ワンマン速攻や二次速攻が決まり始めてから点差が開き始め、一方的な試合になった。

アラブは、独特なパス回しから時折りミドルやポスト攻撃を仕掛けてくるが、いずれも短発で、日本のDFを崩すことができなかった。

今回、中東勢の、サウジアラビア、アラブと2試合行なってみて一番感じたことは、調子に乗った時に持っている力の120％以上は出ているのではないかと思われるほど迫力がある攻撃だった。

中東勢とは、これからも対戦していくが、相手が諦めるような、OF、DFを日本がやっていかないかぎり、調子づかせ、取り返しのつかないことになってしまうと思う。

また、中東勢に限らず、そのような気持ちで試合に臨まなければならないと思う。

最後に、今大会は、韓国に敗れ2位だったが、来年の8月に行なわれるアジア選手権（バルセロナ・オリンピック予選）では、チームの課題、個人の課題を克服して、必ず優勝し、オリンピックの切符を手にしたいと思います。

選手村の生活　矢内浩

私にとって今回が3度目のアジア大会でしたが、選手村については、生活する上ではなんの不自由はなかったと思います。

選手村の造りは、15階建のマンション造りで「2LDK」から「3LDK」で、各室4名～7名が入り、16日間生活をしたわけですが、近代的な造りのわりには、内装で手抜工事が目立ち、むりやり大会に間に合わせた感がありました。ある室では、トイレが詰まり、夜中に工事をするなど日本では考えられないことが多かったと思います。

また今回の大会では、選手村にアルコール等の持ち込みが禁止され、国内より持ち込んだウイスキーなどを没収され、ゲート内に山

積みになっているのをゲートを通るたびに横目でチラチラ見ながら、選手たちが通っている姿がみうけられました。これまでの大会でアルコール等に厳しかったのは初めてのことで、各選手も不満をもらしていましたが、時間がたつにつれ各選手が頭を使いビンなどではX線のテレビカメラに映るためポリ容器にウイスキーを入れ村内に持ち込んでいた選手も少なくなかったと聞いています。

食事については、お国柄中華が中心で、油が多すぎて日本選手には評判が悪かったと思います。

最後に、今大会はこれまでの大会の内では入出村については一番厳しかったと思います。村外の回りには、50m～100m間隔で兵士が自動小銃を持ち、四六時中目を光らせている姿を見ると、昨年の天安門事件を思い出して背筋がぞっとしましたが、大会期間中はなにもなく結局今大会は中国のためにだけ開催されたものと感じたのは私だけではなかったと思いました。

閉会式に参加して

武田英雄

第11回アジア大会の閉会式に、幸運にも参加することができた。

期待と不安を胸に行進した開会式から試合が終えて解放感が全体から私自身感じられた。

パラグライダーによる空中ショーを見上げながら、記念写真を撮ったり、外国選手とピンの交換を入場行進前の短い時間の中で行なっていました。

入場行進は開会式にくらべて比較的自由に行進し、日本選手は緊張から解き放れるようにウェーブを中国の人々に披露しましたが、不発に終ったようでした。しかし各選手の気持ちが前面に出ていたと思います。近い将来はアジアの小さな国の選手から大きな国の選手まで一緒に行進することによって最高の閉会式ができるのではないかと思いながら歩きました。

スタンドには、多くの中国の人々がつめかけ、選手に声援してくれましたが、その中でも中国台北には一段と高い声援がおくられており感激しました。近い将来は国の違いはあるが、中国と中国台北が一緒に行進することを実現してほしいです。

フィールド内のセレモニーが終了すると選手はスタンドに行き、中国伝統の踊りを見学することができました。剣を使っての踊りや20mはあると思われる龍が踊りまくり空に舞い上がって行きました。

アジア中の民族衣装をまとっての踊り、サーカス団による自転車10人乗りの曲技などを披露してくれましたが、最後のフィナーレとして美しく花火が披露されました。夜の空に美しい色とりどりの形の花火がアジア大会のフィナーレを美しく飾って閉会式が終りました。

日本チームの特色

首藤信一

日本チームのこれまでのゲームを考えて見ると、前・後半の立ち上がりが悪い傾向があると思います。

また、ゲーム中DFが悪くなると攻撃まで悪くなり、相手に連続失点を許すケースが見られることから、DFでチームのリズムをとってゆくチームだと思います。

DFがしっかりしている場合は、速攻やセットプレーでも実に良く得点をあげます。このことから、GKのファインプレーは不可欠で、GKがあたっていない時は、苦しい物も考えられます。

速攻を見るとほとんど一発速攻が多く、パスをつないだ二次速攻での得点が少ないことからボールのつなぎに問題があると思います。

攻撃を見ると、前は外人のひいたDFに弱い所がありましたが、今は、上から打てる両45度がいるので苦にする必要もなくなり、チームの得点能力もアップしていると思います。しかし、その半面DFがつめるようになり、ポストが生き出した時に、なかなかパスを通せず、チャンスを生かせないことが多くあり、全体的にポストへのパスが少ないチームだと思います。

攻めの指示は、センターから出されることが多く、ほとんどコンビプレーで攻撃します。フォーメーションの動きは、サイドにボールを入れてタイミングをとることが多く、相手DFがサイドにボールを入れないようにした場合攻めあぐねる傾向があります。

あと、左ききが1人しかいないためか、ボール回しがオープンに回ることが多く、クロスが少ないチームであり、もし、クロスをした場合は、フォーメーションの始まりだと考えていいと思います。

次にDFを見ると、一・二・三DFをしていますが、前に比べて真中4人の層が厚くなり、相手OFに合わしたトップや45度をひけるようになり、堅いDFにつながっていると思います。

しかし、大きいポストに対しては弱く、そこからチャンスまたはシュートを狙われると弱い所があります。相手チームを見ると、強引にプレーしてくるチームに対しては弱いが、ある程度ボールを綺麗に回すチームに対しては強い面があります。

以上のことが日本チームの特色だと思います。

女子選手団

結果と反省

コーチ・水上一

成績は1勝3敗1分で、5位であった。全く残念な結果であり、メダルを目標にしていただけに責任を痛感している。反省点として以下のことがあげられる。

①控えメンバーのトレーニング不足

中国、韓国とも前半22～23分までは、全くの互角の戦いであったが、レギュラーが明らかに疲労している時、控えのメンバーを段入しても、そこまで、トレーニングが出来てなく、ミスをしてはまたレギュラーを段入し、余力のないまま戦って前半残り5分ぐらいで連続失点を受けてしまった。このことは後半にも同様であった。

②戦術的な多彩さの不足

攻撃において、ポジション活動が主体であり、ロングシュートが決まっている時は良いが、だめなとき単調になり、各人が個人プレー（フェイント、ドリブル）の流れる傾向にあったことが、この大会でも表われてしまった。ポジション移動（たとえば、one post からtwo postへの移行）の攻撃が未消化のままであった。

相手5人の時の攻撃戦術が不安定であった。相手5人に対するフォーメーションは用意していたが、トレーニング不足で安定がなかった。

コンビネーションプレーが不完全であった。たとえば、スカイプ

レーやポストプレーなど2人、3人でのコンビプレーが不完全で、ミスに終ることが多く、トレーニング不足であった。

③1対1の弱さ

攻防において1対1の弱さが目立った。

たとえば、韓国チームのフェイントによる1対1の強さや、台北チームのカットインのスピード、北朝鮮の身体を張った1対1の防御。

④精神的な弱さ

北朝鮮とのゲームにおいて、残り7分3点リードを逆転されたゲームなど、グイグイ押してくる北朝鮮の迫力に圧倒されるように逆転された。防御では押し込まれ、攻撃では、逃げたようなプレーが見られるなど、ここという時の強さに欠けていた。また、台北戦では、5点差で勝てば3位になるということもあり、全員が緊張してしまい、全く力を出せない選手もいた。

以上いろいろな反省点をあげたが、多くがコーチングスタッフの問題である。準備が十分でなかった点を、対戦チームにつかれた結果となり、明らかにトレーニング不足であった。しかし、個々には、韓国戦で小松選手が大活躍するなど若手の選手の台頭も見られた。来年開催される、広島でのアジア選手権（兼オリンピック予選）へは、長期間の継続した合宿を行なうことで、これらの個々の反省点を解消し、かつ対戦チームの分析を徹底して行ない、選手ともども努力していきたいと思っている。

アジア大会に参加して

竹吉　由江

9月24日月曜日、アジア競技大会の開会式が盛大に行われました。開会式では、子供達の華麗な踊りや「あっ」と驚かせる演出などで私たちを十分満足させてくれました。26日から男子と一日置きに試合は行なわれ、韓国・中国・北朝鮮・台湾・香港の5チームでメダルを争いました。中でも台湾戦がとても悔しい思いをして一番印象に残っています。台湾は、全体的に小柄でジュニア上がりの子たちがほとんどスタートメンバーで出ていました。私がジュニアチームの時、台湾で世界ジュニア選手権大会の出場権を争う試合がありました。今までの日本は台湾に必ず勝っていたという話を聞いていたので、自分たちも勝つのが当り前だと思ってました。1戦目は快勝し、2戦目は6点もリードされてしまい後半追い上げたものの負けてしまいました。しかし、結果的に得失点差で勝ちましたけど、自分たちの負け試合から台湾は、波に乗ってしまったのだと思います。今年のジュニアは、2戦ともあっさり負けてしまったと聞きましたし、台湾は日本にとって、怖いチームになってしまったのです。

今回のアジア大会での試合も最後まで点の取り合いでした。後半は、ほとんど台湾のペースで、日本は1点を取るのがやっとでした。最後の最後に日本が1点取って試合は、引き分けに終ってしまいました。終って少しすると何故か延長戦をすることになり、日本は、意地で勝つことができましたが、正式な結果では、負けとなってしまい、自分達は5位で終ってしまいました。

延長戦での結果が無効になり、日本にとって大変ショックなことでした。このことについて、かなり揉めたそうですが、選手たちのショックは大きく、この台湾戦での一戦は決して忘れることのない悔しさが残っていると思います。これからの日本に必要なのは、体力よりも誰にも負けないくらいの強い精神と忍耐だと私は思います。もっともっと練習の中で各自が力を付け、沢山のゲームを経験し、チームに自信をつけて行かなければ今度こそ負けてしまうかもしれません。来年の10月に行なわれるオリンピック予選では必ず勝たなければいけないし、勝つために心技体の充実に努力を惜しまず努力いたします。

北朝鮮の特色について

松澤　祐子

私にとってアジア大会は、初めての参加で4年に一度という大会に出れたことを、とてもうれしく思っています。

世界選手権となると、大柄な長身選手が目立ちますが、アジア大会では、日本を含め小柄な選手ばかりでした。このアジア大会を通じて、アジアで勝てないと世界へ出て行けません。世界の壁は厚いといいますが、まだまだ未熟者の私たちには、アジアの壁も厚いのだと感じました。

この大会での2戦目の北朝鮮戦の1敗は、最後まで足を引っぱりました。北朝鮮という国は、隣国でありながら、行くことができない遠い国だと思っていました。

アジア大会に参加して、見た北朝鮮は、一見韓国人のようだけれども、まったく違った雰囲気を持った人たちでした。

ハンドボールのプレー面では、長身のすごいロングシューターがいる訳でもないのに、全員が走って、手荒な感じのするシュートを打ってくるチームでした。韓国などは、ゲームすることが多く見られるけれど、北朝鮮は初めてのゲームとあって、どんなチームなのかわからなかったので、戸惑いも見られました。

北朝鮮は、一言でいぱてしまえば、攻撃的なチームだと思います。技術的なことより、今の私たちにたりない、精神力の強さが見られました。得点が離されても、勝つと

いうことに対して意欲的で、残り時間がなくて、この得点差ならだいじょうぶだと思っていても、いつ何をするかわからないチームなので、最後まで気が抜けませんでした。

結果として日本は、26対24で北朝鮮に敗れて、5位になってしまいました。ゲーム前に、私たちは「戦争をしに行くんだ」と言われました。最後の最後には、技術的なことよりも、精神力的なことの方が大切なのではないかと思います。

来年広島で行われるアジア予選には、この大会の悔しさを忘れずに、大和魂を持って挑み、頑張りたいと思います。

対中国戦

比嘉　晴美

2回戦に北朝鮮という新しく出てきたチームに負けてしまい後の試合は絶対に落とせない状態の中で、中国と対戦することになった。

過去、中国とは今までの大会でいいところまでいきながら、いつも負けており、来年のオリンピック予選となるアジア選手権のためにも、中国戦に焦点を合わしていたので、全員、気合を入れて試合に臨んだ。

先取点を取られたものの、点を取る取られるのゲームを展開、15分ぐらいから日本の得点のリズムがくずれ、なかなかシュートが決まらなくなりだした時、長年のキャリアをもつ中国の2番の選手の強引なプレーや、体をあずけてくるポストなどで、隙をつかれ、おされぎみのまま4点差で前半を折り返した。

後半に入ってすぐ、ディフェンスの隙をつかれ、6点差になった。その後中国はリズムにのり、前半にマークされシュートチャンスが少なかった17番のロングが決まりだし、それからポストやサイドなどに展開され点差を広げられていった。

一方日本は、フォーメーションやセンターの切りくずしから得点を重ね、4点差までいくが、相手が5人の時のセット攻撃ミスや、ノーマークシュートミスなどで、得点差を縮めることができず、結局6点差で試合を終了した。

反省点として、ノーマークシュートの確実性、コンビネーションなどをもっと細かく合わせていき、ディフェンスでは押しこまれないようなパワーをつけること。

当面の焦点は、中国になると思うが、台湾や北朝鮮も大部力をつけているので、これからもっときびしくなってきますが、頑張りたいと思います。

香港チームの特色

武津　優子

アジア大会が始まり、現地入りするまで、香港に対しての情報が無く、選手村の日本選手団の棟と、香港選手団の棟が離れていたため、チームの雰囲気もわかりませんでしたし、生活の部分でも交流がなかったので、対戦した時は、全く零の状態で顔を会わせたことになります。

香港は第4戦目で、韓国、北朝鮮、中国に3連敗の後で、必ず白星、そして次の台湾戦へつながるゲームにすることということで臨みました。試合前のエール、握手を交わす時でも、特に高ぶりは感じられなかったように思います。

試合は、前半20—3、後半15—2、計35—5で終わりました。

選手自体は小柄な方で、大きな選手目立ったプレーヤーはいませんでした。

日本もハンドボールの普及度は、まだまだだと思いますが、香港は日本以上に遅れているのではないでしょうか。

今アジアのハンドボール界の中で、ランキングはありますが、これから、かなり厳しくなると思います。

台湾チームの特色

小松　晃子

私にとって初めてのナショナルメンバーで、初めての国際大会に参加しての試合でした。そのため、日本では知ることのできないいろいろなことを勉強することができました。

台湾というチームは、まだほとんどが高校生という若いチームでしたが、去年から結集されたジュニアのメンバーであり、今のジュニア、兼ナショナルのメンバーでもあるため、「ここぞ」という時の団結力には、優れたものがありました。攻撃力の方は、大きくて上から打ってくる大砲役の子がいるわけではありませんでしたが、ディフェンスをくずしてくるキレのあるフェイントと、ブラインドを利用したスナップシュートなどで、多く得点されました。キーパーも身長は大きい方ではなかったものの、瞬発力とボールへの集着力は、すごかったです。若いチームなためかミスなどは多かったけれども、ミスを恐れずに、堂々と自分たちのプレーをしているように見えました。このチームは、これからどれだけ伸びるのだろうかと不安にもなりました。

私たちは、この試合は引き分けとなり、大会規定に従い、延長戦を行いました。激戦の末27—25で勝ち、銅メダルを手中にしたかにみえました。

次の日、台湾の人たちが私たちのところまできて、手などを使いながら、「私たちはあなたたちに負けたために、50万、飛んでいってしまった……。」と訴えるかのようにいってきました。彼女たちにとって、試合は仕事と一緒だったため、そう訴えるようにいってきたのだと思います。彼女たちの相

手に対する闘争心には驚いてしまいました。
　そして、これが、彼女たちと私たちの試合に対する執着心の違いであると思います。
　また、今の私たちには、足りないものであり、これを満たすことがこれからの課題であると思いました。
　一晩開けると、延長戦の部分のスコアは、無効となり、5位という結果に終わってしまいました。この試合で、1点の重さがどれだけ大切かということを感じさせられました。
　私は、このような結果に終わってしまったことを悔んでなりません。この悔しさを、これからの課題とし、合宿、試合に生かして、次の広島でのアジア選手権で、バルセロナへの切符を手にできるように、自分自身精一杯努力して頑張りたいと思います。

遠征全般について　梅原　直美

　今回、初めてアジア大会という大きな国際大会に参加出来たことは私にとって一生の記念になると思います。また、私にとっての今回のアジア大会はいろいろと勉強になったこと、学んだことが沢山ありました。
　まず一つ目は、精神的なことで試合前のミーティングの時に監督から国と国との戦いだから、私たちは戦争に来ているんだといわれました。でも私はその時に心の中で「戦争だって」と思いながら聞いていました。
　でも終ってみてよく考えてみると本当にその通りで、私たちは戦争に来ていたんだと思いました。それは何故かというと、いざ試合になってみると結果的に、考え方の甘さが出てきたり、チームの弱い部分がそのまま出たりと自分たちの弱さで負けたことが3度ありました。
　でも、プレーで負けたのなら直しようがあると思いますが、精神的なことは、いくら直そうと思っても自分の意志が伴わなければ結局なにをしても一緒で、大事な所で弱い所が出てしまうと思いました。
　そして、全試合を通して自分で何が一番大事なのか考えてみたんですが、凄いプレーをするとか凄いシュートをするとかではなく、ハンドボールに対する心構えと姿勢だと思いました。また、自分に置き換えてみますと、私はそのふたつ共が中途半端だったと思いました。
　2つ目は、自分自身のことについてです。このアジア大会は、私にとってとても意味のある大会でした。昨年の世界Bの予選で日の丸のユニフォームを脱いでいたはずなのにまた再び戻って私にでも役に立てることがあればとアジア大会に臨み、結果は5位でした。その時に自分はこの大会にきて何をしてきたんだろうかと疑問に思うようになりました。このチームの中で私は何をしたのか。たとえば、試合では頑張ってたとか精神的にチームを引っぱってたとか。でも何もできず、ただしたといえば足を引っぱっていてチームのマイナス部分をつくっていたような気がします。私は、いったい何のために全日本に戻していただいたんだろうと考えるととても情けなくて申し訳なく思いました。
　3つ目は、沢山の方々と話す機会があり、自分の競技あるいはその他の競技についての見方や考え方、また感覚の違いについてといろいろと話したりすることができました。いろんな方と話していると沢山教えられることもあったり、「あ、こんなことも」あるんだと思うこともありました。
　最後に、この大会に参加できて私にとって大きなプラスになりました。そして、出発直前までいろいろな方々にお世話になったことに感謝しております。また、私を再び全日本の仲間に入れてくださったスタッフの方々にもありがとうとお礼をいいたいと思いました。

対北朝鮮戦　松田　史佳

　打倒中国で、アジア大会に臨んだ私たちは、いきなり2戦目の北朝鮮戦で大きくつまずいてしまった。初めて対戦する相手であり、どういったチームかは、前々日の北朝鮮対台湾の23—25のゲームをみただけである。しかしこういったことは、国際試合においては当然のことである。
　9月28日、15時30分試合開始。
　自分は緊張していた。プレーが小さくなり消極的な動きでミスの多発、まわりが見えていなかった。全く情けない。前半とったらとり返すといったシーソーゲームで、11—10と、1点リードで折り返した。ハーフタイム。不安な気持ちでいっぱいだった。いったい自分は30分間何をしたのか？　ただ、40mのコートを何回も往復していただけだった。
　後半に入り、しばらくは苦しい時が続いたが、相手の退場もあり、ミスから得点につなげることができ、日本は4点のリードをようやくつかむことができた。しかし、ここで勝ちゲームを知らない「全日本女子の弱さ」が出てしまった。4点リードしていながら、後半の後半6連続失点という最悪も最悪で、ディフェンスが守りきれなかった。技術面においては、何もないと思う。ただ強引につっこんでくるプレーに、日本はついていけなかった。自分、自分たちのミスがあまりにも多すぎた。
　北朝鮮選手が、ラストの笛が鳴った瞬間抱き合って喜んでいた。

その姿は、今でもはっきり、頭に浮かんでくる。
さらに、北朝鮮はどんどん強化してくるにちがいない。体も、スピードも、引け目は全く感じられないが、勝つことへの執念、精神的に相手の方が上回っていた。
絶対に勝つという気迫と集中力に欠けていた。
自分は、もっともっとサイドプレーヤーとしてやらなければならない仕事をしっかりできるようにしたい。まだまだ45度に負担が多すぎる。
北朝鮮にとって、日本に勝ったということは、これからの大きなステップになると思う。日本の女子ハンドボールは、「中国」、「韓国」だけでなく、ほとんどのアジアのチームをあなどれなくなった。
アジア大会で思わぬ展開になってしまい自分たちの力のなさに痛感した。しかし、アジア内でとりのこされないように頑張りたい。

閉会式

小松崎　浩子

9月22日から中国・北京で行なわれた第11回アジア競技大会も10月7日で幕を閉じました。16日間、各競技熱戦を繰り広げ、最終日の閉会式では中国独自のさまざまな演技で、私たちの目を楽しませてくれました。大観衆の中入場して行くと、開会式の時とは違った緊張感があり、また、終ったんだなという安心感もありました。聖火が消えるのを見た時は、少し悲しいような気持ちでした。選手団が退場した後は、子供たちの演技で、華麗な踊りで楽しませてくれました。何人ぐらいで踊っていたのか、考えられないくらいの多人数の子供たちが同じリズムで、間違うことなく、きちんと踊る姿がとても可愛らしかったです。この日のために、毎日毎日練習していたのかなと思うと、私たちと同じで、練習して発表する場、試合と同じことだと思いました。あれだけの人数を指導する人も大変なことで、いろいろな苦労もあったと思いますが、大成功に終わり、きっと満足していることでしょう。
子供たちの演技の後は、中国のすばらしい歌手の歌を聞きました。すき透るような声が場内にひびき、会場を一層盛り上げました。そして、次回行なわれる広島でのアジア大会のための歌と、今大会のマスコットでもあるパンダが登場し、広島でのマスコットと一緒に場内をまわり、楽しませてくれました。そしてフィナーレを飾るのにふさわしい花火が打ち上げられました。いろいろな花火が打ち上げられるたびに、観声があがり、私たちを十分に満足させてくれました。同時に、今大会の幕を閉じました。
16日間という長い期間、それぞれ反省すること、考えることが一人一人あったと思います。満足の行く者もいたと思いますが、日本で、広島で行なわれるアジア競技大会では、今大会以上の力で頑張ってほしいと思います。また、来年10月に行なわれるオリンピック予選では必ず勝って、バルセロナに行きたいと思います。日々の努力と各自の自覚とで、また気持ちを切り変えて自信を持って次の大会に臨んでほしいと思います。

中国の印象

西村　聖子

中国北京空港に足を踏み入れるのは2度目。私が高校1年の時にきた4年前と比べて、どう変わっているだろうと、大いに期待をして中国にのりこみました。中華人民共和国の首都であり、政治、経済、科学と文化の中心地である北京で開催された今大会は、中国だからこそできるというのが前面にでた大会でした。運営、設備、そして警備の厳重さは、私の予想を遥かに超えた大規模なものでした。国ぐるみで高い理想を掲げて労働を尊んでいる社会を実際眺めて、資本主義である日本とは違うということを実感しました。
市内の様子を最も印象づけるのは、おびただしい自転車です。百mはある道幅もラッシュ時には、半分は埋めつくし、川のように流れていました。バスに乗って移動中の時のこと。大通りを走っていると、前方にいきなり飛び込んできて素早く横切る人がいます。危うく事故になるところで、私はヒヤリとしました。日本であれば一番キモを冷やすのは運転手なのに、当の運転手は怒鳴りもせず、その上顔色ひとつ変えず、平然として運転を続けていました。その後も、正面衝突しかねまじき勢いですれ違う。クラクションが凄まじい。ノロノロと前をいくトラックを追い越そうとしては鳴らし、フラフラと道路の真ん中へ入ってくる人や自転車を、追い払おうとしては鳴らす。車が近づいても悠然として歩いていくのですから、安心してバスに乗っていることができませんでした。これから中国では、交通ルールを徹底させる必要があると痛感しました。
この遠征期間中、選手村で生活をしていた私は、一度、一般の人の生活をみたいと思っていましたが、素顔の中国をみることができずに終わってしまいました。ただ、わずかながら一般の人と接したり、通訳の人から聞いたことから思うと、日本人と中国人を比べると、日本人の短気が目立ちます。中国人は気の長い人間です。定刻通り出発しないバスの中で、イライラして文句をいっているのは日本人。中国人は待つことには慣れているとみえて、少しもイライラせず、のんびりとおしゃべりをしている。最初は、私もずいぶんイライラしていましたが、中国では焦っても仕方がないと思い、何事にも待つことにしました。分刻みで行動している日本人からは、考えられないことですが、中国人の考えからいうと、「すべては時間が決める。自分の力で決まるものではない、自然のままに任せている。」というのです。道端でも、日本では見ることのない光景が多々ありました。日なたぼっこをしている人、碁を打つ二人の周りに群がる人、試合会場の周りで写真を撮る家族連れの多さ……。
どこを見ても、人、人、人、の北京の街――。アジア大会が開催されるにあたって、改善された北京の街は、新と旧の調和を保ち、市内の史跡のゆきとどいた保存にも、手が加えられているたたずまいでした。また、ところどころに、国内情勢の不安定さを感じましたが、「社会主義中国」は、豊かな国家を目指して「現代化」が進められている、活気的な国という印象が、強く残りました。

各地学生秋季リーグ戦から

北海道学生

（10月5～7日／北大体育館ほか）

▼男子1部

北海学園大	34―15	室蘭工大
函館大	26―11	小樽商科大
北大	36―23	北教大函館
北大	18―11	小樽商科大
函館大	39―16	北海学園大
北教大函館	17―15	小樽商科大
函館大	52―9	室蘭工大
北大	22―17	北海学園大
函館大	40―7	北教大函館
小樽商科大	16―15	北海学園大
北大	30―12	室蘭工大
北教大函館	31―15	室蘭工大
小樽商科大	22―11	室蘭工大
北海学園大	25―12	北教大函館
函館大	32―14	北大

〔順位〕①函館大②北海道大③北海学園大④小樽商科大⑤北海道教育大函館分校⑥室蘭工業大

▼男子2部

札幌大	21―21	北教大旭川
北教大釧路	27―16	北大医学部
北星大	24―23	北見工大
北教大釧路	25―18	北教大旭川
北星大	24―13	札幌大
北教大旭川	22―18	北星大
北見工大	24―18	札幌大
北星大	26―26	北教大旭川
北大医学部	24―23	札幌大
北教大釧路	29―21	北見工大
北見工大	27―18	北大医学部
北教大釧路	25―23	札幌大
北見工大	21―18	北教大旭川
北星大	32―23	北大医学部

〔順位〕①北海道教育大釧路分校②北星学園大③北見工業大④北海道教育大旭川分校⑤北海道大医学部⑥札幌大

▼男子3部

釧路公立大	22―10	北海道工大
札幌学院大	26―17	道都大
釧路公立大	35―25	学園大北見
北海道工大	52―12	学園大北見
釧路公立大	27―24	道都大
札幌学院大	28―19	北海道工大
札幌学院大	38―9	学園大北見
道都大	24―16	北海道工大
釧路公立大	22―18	札幌学院大
道都大	38―10	学園大北見

〔順位〕①釧路公立大②札幌学院③道都大④北海道工業大⑤北海学園北見大

▼女子

北教大旭川	25―13	北星大
道女短大	25―8	北星大
北教大旭川	16―15	道女短大

〔順位〕①北海道教育大旭川分校②北海道女子短期大③北星学園大

東北学生

（10月3～6日／仙台市体育館）

▼男子1部

東北福祉大	23―21	岩手大
東北学院大	21―18	岩手大
仙台大	24―16	岩手大
岩手大	25―25	東北大
福島大	23―22	岩手大
東北学院大	23―21	東北福祉大
東北福祉大	36―20	仙台大
東北福祉大	35―19	東北大
東北福祉大	32―22	福島大
東北学院大	30―17	仙台大
東北学院大	27―23	東北大
東北学院大	25―24	福島大
仙台大	30―26	東北大
仙台大	29―28	福島大
東北大	20―17	福島大

〔順位〕①東北学院大②東北福祉大③仙台大④東北大⑤福島大⑥岩手大

▼男子2部

山形大	34―22	弘前大
宮城教育大	25―19	弘前大
弘前大	58―26	日大工学部
山形大	21―19	宮城教育大
山形大	52―13	日大工学部
宮城教育大	28―16	日大工学部

〔順位〕①山形大②宮城教育大③弘前大④日大工学部

▼女子

東北福祉大	35―10	岩手大
東北福祉大	26―7	福島大
東北福祉大	42―4	宮城教育大
東北福祉大	44―6	山形大
福島大	21―11	岩手大
岩手大	37―7	宮城教育大
岩手大	28―12	山形大
福島大	41―6	宮城教育大
福島大	28―12	山形大
山形大	21―6	宮城教育大

〔順位〕①東北福祉大②福島大③岩手大④山形大⑤宮城教育大

▼男子入替戦

福島大	34―21	宮城教育大
岩手大	24―21	山形大

※福島大、岩手大ともに1部残留。

関東学生

▼男子1部

早大	39―19	中大
国士舘大	36―16	明大
日体大	23―16	順大
筑波大	22―21	法大
中大	24―23	国士舘大
日体大	31―23	筑波大
早大	31―20	明大
法大	22―16	順大
日体大	20―20	中大
法大	17―17	明大
早大	25―16	順大
国士舘大	21―18	筑波大
国士舘大	26―15	順大
法大	26―22	中大
早大	27―20	筑波大
日体大	37―25	明大
明大	22―16	順大
筑波大	19―14	中大
早大	29―22	法大
国士舘大	26―19	日体大
順大	22―17	中大
筑波大	28―13	明大
早大	[illegible]3―27	日体大

早大	35－21	法大
中大	18－18	明大
順大	23－22	筑波大
法大	30－24	日体大
早大	27－19	国士館大

〔順位〕①早稲田大②国士館大③日本体育大④法政大⑤筑波大⑥中央大⑦順天堂大⑧明治大

▼女子1部

日体大	42－9	千明短大
筑波大	29－17	日女体大
東女体大	36－15	東海大
日体大	41－9	千明短大
筑波大	27－18	日女体大
東女体大	34－14	東海大
日体大	29－19	東海大
筑波大	36－8	千明短大
東女体大	30－12	日女体大
日体大	35－21	東海大
筑波大	44－9	千明短大
東女短大	35－19	日女短大
東海大	34－21	千明短大
日体大	26－18	日女体大
筑波大	22－21	東女体大
東海大	27－17	千明短大
日体大	26－14	日女体大
東女体大	30－23	筑波大
東女体大	44－10	千明短大
東海大	21－19	日女体大
筑波大	29－17	日女体大
東女体大	34－14	千明短大
日女体大	26－17	東海大
筑波大	21－21	日体大
日女体大	29－13	千明短大
筑波大	32－7	東海大
東女体大	23－16	日体大
日女体大	33－10	千明短大
筑波大	27－13	東海大
東女体大	22－11	日体大

〔順位〕①東京女子体育大②筑波大③日本体育大④日本女子体育大⑤東海大⑥千葉明徳女短大

各地学生秋季リーグ戦から

北信越学生

（9月28日～30日／富山市体育文化センター）

▼男子1部

新潟大	24－19	金工大
金工大	33－6	福井大
金工大	28－9	信州大
金工大	14－12	富山大
新潟大	31－20	福井大
新潟大	29－6	信州大
新潟大	26－15	富山大
福井大	22－16	信州大
富山大	21－17	福井大
富山大	26－14	信州大

〔順位〕①新潟大②金沢工業大③富山大④福井大⑤信州大

▼男子2部

金沢大	23－10	富医大
金沢大	29－9	長野大
富医大	16－15	長野大

〔順位〕①金沢大②富山医科薬科大③長野大

▼女子

金沢大	18－13	富山大
信州大	17－11	富山大
仁愛短大	20－8	富山大
新潟大	26－17	富山大
金沢大	13－13	信州大
仁愛短大	12－11	金沢大
新潟大	21－10	金沢大
信州大	13－10	仁愛短大
新潟大	12－9	信州大
仁愛短大	17－14	新潟大

〔順位〕①新潟大②信州大③金沢大④仁愛短期大⑤富山大

関西学生

▼男子1部

大体大	33－18	大経大
大体大	40－16	桃山学院
大体大	33－14	関大
大体大	44－14	京産大
大体大	40－16	同志社大
大体大	42－15	立命館大
大経大	35－17	桃山学院
関西大	25－21	大経大
大経大	34－12	京産大
大経大	30－14	同志社大
大経大	27－22	立命館大
同志社大	29－18	桃山学院
同志社大	25－17	関大
同志社大	29－19	京産大
同志社大	25－21	立命館大
桃山学院	30－24	関大
関大	25－18	京産大
関大	23－17	立命館大
桃山学院	19－16	京産大
立命館大	2[illegible]－22	桃山学院
京産大	21－20	立命館大

〔順位〕①大阪体育大②大阪経済大③同志社大④関西大⑤桃山学院大⑥立命館大⑦京都産業大

▼男子2部

近大	35－21	天理大
近大	26－22	大教大
近大	32－22	仏教大
近大	29－19	京教大
近大	21－19	関外大
近大	29－20	和歌山大
天理大	26－22	大教大
仏教大	24－23	天理大
京教大	36－29	天理大
天理大	26－21	関外大
天理大	32－32	和歌山大
大教大	29－22	仏教大
京教大	27－22	大教大
大教大	27－18	関外大
大教大	28－18	和歌山大
京教大	41－27	仏教大
仏教大	24－19	関外大
仏教大	29－22	和歌山大
関外大	23－22	京教大
京教大	33－15	和歌山大
関外大	20－17	和歌山大

〔順位〕①近畿大②京都教育大③大阪教育大④仏教大⑤天理大⑥関西外語大⑦和歌山大

▼男子3部

京大	40－11	大府大
京大	23－21	神戸大
京大	29－15	龍谷大
京大	22－14	大阪大
京大	27－15	大市大

各地学生秋季リーグ戦から

神院大 29－24 京大
神戸大 27－19 大府大
大府大 25－24 龍谷大
大府大 25－24 大阪大
大市大 28－22 大府大
神院大 30－20 大府大
神戸大 40－20 龍谷大
神戸大 36－19 大阪大
大市大 22－19 神戸大
神院大 26－18 神戸大
龍谷大 25－24 大阪大
大市大 33－15 龍谷大
神院大 37－28 龍谷大
大市大 23－22 大阪大
神院大 25－23 大阪大
大市大 22－15 神院大

〔順位〕①京都大②神戸学院大③大阪市立大④神戸大⑤大阪府立大⑥龍谷大⑦大阪大

▼男子4部

大院大 24－23 甲南大
関学 20－14 甲南大
甲南大 20－15 滋賀大
京工大 20－18 甲南大
甲南大 23－20 奈良大
甲南大 32－30 奈教大
関学 36－22 大院大
大院大 27－17 滋賀大
京工大 12－0 大院大
奈良大 43－26 大院大
奈教大 12－0 大院大
関学 22－15 滋賀大
関学 25－23 京工大
関学 28－21 奈良大
関学 33－20 奈教大
京工大 32－14 滋賀大
奈良大 28－14 滋賀大
滋賀大 24－23 奈教大
京工大 22－19 奈良大
京工大 28－27 奈教大
奈良大 28－27 奈教大

〔順位〕①関西学院大②京都工芸繊維大③奈良大④甲南大⑤奈良教育大⑥滋賀大⑦大阪学院大

▼男子5部

姫独大 24－21 大産大
姫独大 21－19 追手門大
姫独大 30－20 大工大
姫独大 37－8 兵教大
姫独大 28－21 神商大
姫独大 21－14 姫工大
大産大 16－12 追手門大
大産大 27－16 大工大
大産大 27－9 兵教大
大産大 27－15 神商大
大産大 33－11 姫工大
追手門大 27－17 大工大
追手門大 22－12 兵教大
追手門大 30－15 神商大
追手門大 27－14 姫工大
大工大 20－17 兵教大
神商大 33－15 大工大
大工大 19－17 姫工大
神商大 27－11 兵教大
姫工大 26－24 兵教大
神商大 28－16 姫工大

〔順位〕①姫路独協大②大阪産業大③追手門学院大④神戸商船大⑤大阪工業大⑥姫路工業大⑦兵庫教育大

▼男子6部

京府大 19－14 大歯大
京府大 24－16 大薬大
京府大 16－16 京外大
大外大 19－18 京府大
大薬大 17－16 大歯大
大歯大 22－13 京外大
大外大 20－18 大歯大
大薬大 18－14 京外大
大薬大 17－14 大外大
京外大 22－13 大外大

〔順位〕①大阪薬科大②京都府立大③大阪外語大④京都外語大⑤大阪歯科大

▼女子1部

大体大 24－16 武庫川女大
大体大 30－13 天理大
大体大 33－10 大教大
大体大 37－14 関外大
大体大 40－16 京教大
大体大 39－19 仏教大
武庫川女大 25－21 天理大
武庫川女大 28－16 大教大
武庫川女大 41－14 関外大
武庫川女大 39－14 京教大
武庫川女大 43－16 仏教大
天理大 17－16 大教大
天理大 22－17 関外大
天理大 40－12 京教大
天理大 31－17 仏教大
大教大 18－17 関外大
大教大 27－11 京教大
大教大 23－14 仏教大
関外大 24－17 京教大
関外大 33－16 仏教大
仏教大 32－25 京教大

〔順位〕①大阪体育大②武庫川女子大③天理大④大阪教育大⑤関西外語大⑥仏教大⑦京都教育大

▼女子2部

成蹊大 31－5 神戸大
成蹊大 19－14 立命館大
成蹊大 16－16 関大
成蹊大 22－9 関学
成蹊大 30－15 大薬大
成蹊大 31－8 滋賀大
立命館大 23－7 神戸大
立命館大 16－13 関大
立命館大 21－14 関学
立命館大 24－13 大薬大
立命館大 25－11 滋賀大
関大 13－5 神戸大
関大 11－8 関学
関大 18－8 大薬大
関大 22－7 滋賀大
関学 17－12 神戸大
大薬大 16－10 関学
関学 18－8 滋賀大
神戸大 15－13 大薬大
滋賀大 11－9 神戸大
滋賀大 12－11 大薬大

〔順位〕①大阪成蹊女短大②立命館大③関西大④関西学院大⑤滋賀大⑥大阪薬科大⑦神戸大

▼女子3部

。Aブロック

甲南大 17－4 兵教大
甲南大 6－6 奈女大
甲南大 35－8 大外大
甲南大 25－7 奈教大
甲南大 14－14 龍谷大
龍谷大 12－5 兵教大
龍谷大 22－8 奈女大
龍谷大 28－10 大外大
龍谷大 27－7 奈教大
奈女大 11－4 兵教大
奈女大 15－14 大外大
奈女大 13－8 奈教大
奈教大 13－12 兵教大
奈教大 15－13 大外大
大外大 12－0 兵教大

。Bブロック

和歌山大 10－6 追手門大
和歌山大 12－3 京女大
和歌山大 17－3 京府大
和歌山大 9－7 大府大
和歌山大 18－1 園田大
京女大 13－6 追手門大
京女大 17－6 京府大
京女大 18－7 大府大
京女大 16－3 園田大
追手門大 16－4 京府大
追手門大 16－12 大府大
追手門大 5－3 園田大
大府大 17－9 京府大
大府大 17－5 園田大
園田大 12－0 京府大

。順位決定戦

甲南大 16－5 和歌山大
龍谷大 22－10 京女大
奈女大 18－9 追手門大
兵教大 22－11 大府大
大外大 19－6 園田大
奈教大 29－2 京府大

各地学生秋季リーグ戦から

〔順位〕①甲南大②和歌山大③龍谷大④京都女子大⑤奈良女子大⑥追手門学院大⑦兵庫教育大⑧大阪府立大⑨大阪外語大⑩園田学園女子大⑪奈良教育大⑫京都府立大

中四国学生

〔日程場所不明〕

▼男子1部

山口大 21−19 広島大
山口大 15−11 松山大
山口大 22−15 愛媛大
山口大 21−19 香川大
広島大 21−24 松山大
広島大 22−19 愛媛大
広島大 21−20 香川大
愛媛大 18−15 松山大
松山大 19−18 香川大
愛媛大 26−13 香川大

〔順位〕①山口大②広島大③松山大④愛媛大⑤香川大

▼男子2部

徳山大 21−16 高知大
高知大 13−10 岡山大
高知大 24−16 広島修道大
高知大 28−18 近畿大
岡山大 30−15 徳山大
徳山大 29−16 広島修道大
徳山大 29−20 近畿大
広島修道大 17−16 岡山大
岡山大 27−17 近畿大
広島修道大 34−10 近畿大

〔順位〕①高知大②徳山大③岡山大④広島修道大⑤近畿大

▼男子3部

広島経済大 23−18 徳山大
広島経済大 23−17 広島工業大
広島経済大 21−18 島根大
広島経済大 30−18 鳥取大
徳島大 28−25 広島工業大
徳島大 21−17 島根大
徳島大 26−24 鳥取大
広島工業大 24−15 島根大
広島工業大 21−18 鳥取大
島根大 22−18 鳥取大

〔順位〕①広島経済大②徳島大③広島工業大④島根大⑤鳥取大

▼女子1部

広島大 15−13 岡山県短
広島大 21−12 愛媛大
広島大 22−12 高知大
岡山県短 16−14 愛媛大
岡山県短 18−11 高知大
愛媛大 12−11 高知大

〔順位〕①広島大②岡山県立短期大③愛媛大④高知大

▼女子2部

岡山大 19−2 岡山女短大
岡山大 20−3 鳴門教育大
鳴門教育大 13−8 岡山女短大

〔順位〕①岡山大②鳴門教育大③岡山女短期大

各地の記録から・・・

東北

青森県中央地区高校秋季大会

（9月22、23日／青森商業高校）

▼男子リーグ戦
青森 19－13 青森東
青森商 27－12 青森南
青森 20－15 今別
青森商 24－12 青森山田
今別 32－9 青森東
青森山田 13－12 青森南

▼5位決定戦
青森東 18－12 青森南

▼3位決定戦
今別 16－9 青森山田

▼決勝
青森商 24－6 青森

▼女子リーグ戦
青森東 8－8 青森商
青森西 15－7 今別
青森中央 31－2 青森東
青森西 23－2 青森商
青森中央 24－6 今別
青森西 24－1 青森東
今別 23－3 青森商
青森中央 33－2 青森商
今別 26－1 青森東
青森西 14－12 青森中央
〔順位〕①青森西②青森中央③今別④青森東⑤青森商

青森県南地区高校秋季大会

（9月23、24日／野辺地高校）

▼男子リーグ戦
野辺地 33－13 三本木農
三本木 15－6 七戸
十和田工 17－11 七戸
三本木 26－11 三本木農
野辺地 22－10 十和田工
七戸 15－14 三本木農
野辺地 31－10 三本木
三本木農 13－12 十和田工
三本木 17－15 十和田工
野辺地 27－17 七戸
〔順位〕①野辺地②三本木③十和田工④七戸⑤三本木農

▼女子リーグ戦
六ヶ所 15－4 野辺地工
野辺地 11－3 三本木
三本木 6－5 六ヶ所
野辺地 31－3 野辺地工
野辺地 18－6 六ヶ所
三本木 9－2 野辺地工
〔順位〕①野辺地②三本木③六ヶ所④野辺地工

第11回青森県西地区高校秋季大会

（10月10日／鰺ヶ沢高校）

▼男子リーグ戦
五所川原 19－11 柏農
鰺ヶ沢 26－16 五所川原
鰺ヶ沢 32－5 柏農
〔順位〕①鰺ヶ沢②五所川原③柏木農

関東

第25回群馬県中学総体

（7月30、31日、8月1日／富岡小学校ほか）

〈男子〉

▼1回戦
南八幡 20－8 前橋一
相生 23－11 前橋三
藤岡南 23－15 下仁田西
富岡 22－9 富岡西
甘楽二 34－8 梅田
矢中 21－13 甘楽三
富岡東 28－8 藤岡北

▼2回戦
富岡南 27－12 南八幡
藤岡南 21－13 相生
甘楽二 17－14 富岡
富岡東 16－6 矢中

▼準決勝
富岡南 24－15 藤岡南
富岡東 27－11 甘楽二

▼決勝
富岡南 21（8－6、13－7）13 富岡東

〈女子〉

▼1回戦
高南 19－9 梅田
矢中 18－2 富岡西
相生 8－6 塚沢

▼2回戦
富岡東 20－4 高南
富岡南 15－13 矢中
富岡 26－7 相生

▼決勝リーグ
富岡 18－9 富岡南
富岡東 16－8 富岡南
富岡東 12－10 富岡
〔順位〕①富岡東②富岡③富岡南

東海

岐阜県高校総体

（8月18、19日／岐阜南高校グランド）

〈男子〉

▼1回戦
各務原 28－5 海津北
岐阜西工 22－8 大垣工
岐阜南 24－8 中京商
各務原西 18－8 大垣東

▼2回戦
市岐阜商 26－6 各務原
加納 17－9 高山工
岐陽 28－12 中濃西
岐阜西工 16－3 岐阜工
岐阜南 18－10 可児
岐阜北 14－10 大垣北
岐阜東 17－4 斐太
各務原西 11－10 県岐阜商

▼3回戦
市岐阜商 23－2 加納
岐阜西工 16－13 岐陽
岐阜南 24－11 岐阜北
岐阜東 [illegible]－4 各務原西

▼準決勝
市岐阜商 21－10 岐阜西工
岐阜東 14－13 岐阜南

▼決勝
市岐阜商 25（14－5、11－2）7 岐阜東

〈女子〉

▼1回戦
養老女 22－6 羽島北
加納 13－7 大垣東
富田女 30－1 大垣女
益田 8－6 本巣
県岐阜商 16－1 不破
大垣北 12－0 高山西
郡上 13－4 瑞浪
高山 14－8 各務原西

▼2回戦
養老女商 17－2 加納
富田女 14－3 益田
県岐阜商 18－6 大垣北
高山 16－2 郡上

▼準決勝
富田女 16－12 養老女商
高山 12－8 県岐阜商

▼決勝
高山 15（7－6、8－6）12 富田女

'91広島アジアハンドボール選手権大会を成功させよう!!

―第6回男子・第3回女子アジアハンドボール選手権大会
兼バルセロナオリンピックアジア地区予選―

〔日程〕　一九九一年八月二十二日㈭～九月一日㈰

〔大会会場〕　広島サンプラザ・広島市東区スポーツセンター

㈶日本ハンドボール協会
広島県ハンドボール協会

（財）日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二〇四号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
平成二年十一月二十六日 印刷
平成二年十二月一日 発行
東京都渋谷区神南一－一－一
電話 代表（481）二三六一
振替 東京 六－五八三四八番
編集兼発行人 安藤純光
定価三百五十円（年間購読料三千三百円）